

## 平成 7 年度通常総会

## 新会長に村木潤次郎元副会長



会員151名が出席して平成7年度の総会開催

議案審議に先立ち、小倉茂暉総務担当常務理事から、三月末現在の会員数は五千四百二十四名、委任状二千三百六十二名で、出席者と併せ定款に定め

り可決、承認した。

この通常総会には会員百五十一名が出席、【議案】①平成六年度事業報告および収支決算、財産目録承認の件 ②平成七年度事業計画(案)および収支予算(案)承認の件 ③平成七年度役員および評議員改選の件 ④定款改正の件(入会金、会費) ⑤細則改定の件 ⑥組織見直しの件 ⑦平成七年度除籍者の件 ⑧その他、について慎重審議を行い、いずれもこれを原案どおり可決、承認した。

基金返上などによる雑収入の増大のほか、事務所改修のため長期計画積立金

それによると平成六年度の収入は、予算額六千三百七十万円に対し、決算額九千六百九十九万九千六百六十二円で、二千七百六十二万九千九百六十二円の黒字となった。これは刊行物売上収入、JACグッズなどその他事業収入や、金利低下による受取利息が減ったものの「環境事業団環境基金」助成金、九二パーセント納入率の通常会費収入、海外登山基金返上などによる雑収入の増大のほか、事務所改修のため長期計画積立金

ホテル水道橋で開かれた。

平成七年度通常総会が五月二十日、東京都千代田区三崎町の東京グリーン

### ■平成六年度事業報告および収支決算など

藤平正夫会長が議長席に着き、議案審議では、小倉理事の平成六年度事業報告(別掲)に続き、大倉昌身財務担当常務理事から同年度収支決算、財産目録(いずれも別掲)について詳細な説明が行われた。



1995 年 (平成 7 年)  
7 月 号 (No.602)

社団法人 日本山岳会

The Japanese Alpine Club

定価一部 150 円

## 目 次

|                  |    |
|------------------|----|
| 平成 7 年度通常総会      | 1  |
| 平成 7 年度理事・監事・評議員 | 3  |
| 会長就任にあたって        | 4  |
| マカルー東稜・登頂記       | 5  |
| 平成 6 年度事業報告      | 6  |
| 収支計算書            | 7  |
| 正味財産増減計算書        | 7  |
| 貸借対照表            | 8  |
| 財産目録             | 8  |
| 平成 7 年度事業計画(案)   | 10 |
| 収支予算書(案)         | 11 |
| 定款の新旧対照表         | 12 |
| 日本山岳会細則          | 12 |
| 細則改定(案)          | 13 |
| 日本山岳会組織見直しについて   | 13 |
| 海外の山             | 15 |
| 東西南北             |    |
| 北東稜からエベレスト登頂     | 14 |
| 見果てぬ夢・パミールの高地    | 14 |
| 俳句・ヒマラヤ紀行・20句    | 16 |
| 武田久吉氏の書簡から       | 16 |
| 山と医療             | 17 |
| 会務報告・会員異動        | 18 |
| 創立90周年記念事業募金応募状況 | 20 |
| 新入会員             | 21 |
| INFORMATION・住所変更 | 22 |
| ルーム日誌            | 23 |

|                |           |
|----------------|-----------|
| ▶日本山岳会事務取扱時間   |           |
| 月・火・木・土曜日      | 10~20時    |
| 水・金曜日          | 13~20時    |
| ▶図書室開室時間       |           |
| 日曜・祭日・月曜日を除く毎日 |           |
|                | 13~20時    |
| ▶ルーム夏休み        | 8月14日~19日 |

一方、支出面では予算額六千八百七十六万七千円に対し、決算額一億五百六十七万八千四百三十八円で、三千六百九十一万四千四百三十八円の増加。大きく目立つのは事務所改修による修繕費、これに関連する什器備品費などや、ナムチャバル写真集刊行の遅れによるその他事業費、自然保護専門委員会への調査研究費、新たに手当てした一〇四号室の賃借料。

財産目録は、資産合計三億五千八百八十六万二千三百四十二円、負債合計六百九十九万四千六十円、差引正味財産三億五千九百九十五万八千二百八十二円である。

これに関し川崎巖監事から、平成六年度の収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表および財産目録を監査し、正確妥当なことを認めるとの報告があった。

### ■平成七年度事業の目玉は ブロック別九十周年記念式典

平成七年度事業計画(案)および収支予算(案)(いずれも別掲)についても、小倉、大倉両理事から詳細な説明があった。

事業計画の目玉となるのは、ブロック別に開催される九十周年記念式典で、六月十七・十八日の九州ブロックを皮切りに、明年一月二十七・二十八日の関西ブロックと、全国八ブロックで実

施される。このため今年度は全国支部懇談会、年次晩餐会は中止されることになる。

これに対する予算は、金利低下による受取利息の減少を見込みつつ、九二パーセント前後の納入率を見込んだ通常会費収入、名簿製作に伴う広告料収入、山岳研究所使用料収入などの増加を加味し、六千四百七十二万円に。

支出面では、一〇四号室の賃借料が目立って大きいのが特徴。会員名簿製作のための印刷製本費増もあるが、会報「山」印刷コストの削減による出版費の大幅減少もあって、七千三百五十九万三千円に定められている。

平成七年度役員および評議員改正の件については、今回いずれも定数二十名のうち、それぞれ十名、十三名の入れ替えとなった。役員では新会長村木潤次郎元副会長、新副会長に斎藤惇生、宮下秀樹の両氏を選出、副会長は再任の中村純二氏と併せ三名体制となった。

### ■定款、細則の改定や 組織の見直しについて

定款改定の件(入会金、会費)、細則改定の件、組織見直しの件については一括審議となり、中村副会長が説明に立った。

定款改定は入会金、会費の八年ぶりの値上げに伴うもので、骨子は入会金五千円アップ、会費二千円アップで会

## 次代に残そう美しい山と溪

費は全国一率同額となる。文部省への認可申請を経て、平成八年四月一日から実施される。

これについて大倉理事から、すでに平成六年度収支決算は、単年度としては赤字、平成七年度収支予算も赤字が予測されている。昭和六十二年の会員数四千三百名は、現在五千四百名に膨張しているが、これはその間の通信費増、事務所拡大、将来のデータバンクを予想しての職員三名体制や、これに付随する諸費用増などを考えると、健全財政を保つための措置で、平成八年度には年間一千万円の増収が見込めるとの説明があった。

細則改定、組織見直しは、二年後実施をメドに、日本山岳会の方向づけが示されたもので、骨子は①本部、各支部、各委員会相互の連絡の強化 ②若年層会員の増加策 ③会員の自主的活動の場の拡大、を図るため、入会制度、受益者負担の原則、若年層対策、支部対策、委員会構成の変更、各種グループ、委員会組織について、見直そうというもの。

### ■活発な質疑応答

以上の審議の中での質疑応答をまと

めておくと

―柴田篤志会員 平成七年度収支予算案中、広告料収入は実現可能か。休館日を設けた山岳研究所使用料増は矛盾しないか。

―大倉理事 広告料金も改定し、名簿発行年度であり可能な数字。山研は今期フル稼働するし、数字は努力目標と考えてほしい。

―河田豊吉会員 組織見直し中、満二十五歳以下の入会者は、入会金、会費を半額にしたらどうか。

―小倉理事 入会金は一度であり、会費は会員平等であると考え。

―山田二郎名誉会員 平成八年度は、値上げによって一千万円増収になるというが、次年度以降はどうか。一〇四号室の賃借料は重い。底値で取得する意向は。

―大倉理事 それらも考えている。

―安間荘会員 支部会員は大幅に増えている。支部活動は本部還元金と支部会費で賄っているが、本来ならば還元金で賄うのが筋ではないか。各支部が支部会費を徴収しない状態は考えられないか。例えば還元金の増額とか。

―小倉理事 各支部によって支部会費

第31回

観光週間

8月1日～7日

実施目標

1. 観光道徳の高揚
2. 観光地の美化
3. 健全な観光旅行の促進

総務委員会

を徴収する、しないの実状がある。文部省の指摘で、還元金という名称は助成金と改めるが、支部活動を活発にするために、ウエストン祭支部懇談会など助成を厚くすることは考えている。

―石田稔郎会員 組織見直し中、同好会の山行にも必ず保険加入するのか。委員会委員の任期二年、再任は妨げないが、再々任は行わないとなると、本人に続けたい意志がある場合どうするか。かつてあった東京支部を設ける考えはないか。同好会への補助はあるのか。

―中村副会長 保険加入は希望事項である。委員任期は四年間全力投球してもらおうことで、その後二年間、協力委員として参画し、復帰することはあり得る。「山岳」・「山」編集のように、経験の必要なものは別として、新しい会員に会活動をしてもらう。これにより世代交代も図れる。現段階で東京支

部は考えられない。今後、いろいろなグループができればいい。委員会の予算も十五〜三十万円程度であり、通信費の意味で二〜三万円程度は同好会にも出せると思う。

―藤平会長 これまで九十年の積み重ねだけで、見直しはなかった。委員会も新入会員を拒む傾向にあったのも事実だ。

ついで小倉理事から平成七年度除籍対象者名が示され、紹介者に働きかけるなど、極力除籍者を減らすことが確認された。

その他では、日本山岳会マカルー登山隊一九九五の重廣恒夫隊長から、頂上アタックを前にした五月二十日付けの「会員の皆様へ」とするメッセージが披露されたほか、募金は五月十八日現在、会員延べ一千百七十五名、一千六百四十四万八千六百三円、企業申し込み七十三社、一千六百五十八万円のうち一千四百二十四万円入金済みとの報告があった。

■新旧会長が挨拶

次に新役員、新評議員の紹介があり、村木潤次郎新会長は「新しい運営組織を担うことになったが、今の気持ちとして、会の中に枠にはまった管理体制は取りたくないと思っている。山を愛する人の集団として、討論、討議を重ね、相手の立場を理解し、山田、藤平

路線を受け継いでいく。藤平前会長には引き続いて九十周年記念事業実行委員長をお願いし、前期会運営にかかわった方にはそのまま残って協力していただく。会員の皆様の援助と応援を得て、任期を務めさせていただく」と挨拶した。

締めくくりに挨拶で藤平会長は「会長の任務は何か、常に問い続けていた。年次晩餐会である新入会員が、最高の文化人の中に加えてもらい、最高の喜び、と言った言葉が印象に残っているが、日本山岳会の国際的ステータスは高い。そのステータスを落としたくないかった。どうあるべきか。何かしないかと、何もしない日本山岳会になりかねない。組織見直しを考えたのも、要因はそこにあった」と述べた。

この総会の議事録署名人名には、南川金一、溝口洋三両会員が指名された。

■懇親会は二度乾杯!!

無事総会を終え、小憩の後、同所で懇親会が坂本正智総務委員の司会で開かれた。藤平前会長が「日本山岳会がますます発展し、さらにステータスを高めることを祈る」と開会辞。乾杯音頭に指名された織内信彦名誉会員が、代打で立った渡辺兵力名誉会員のあとに現れ、二度の乾杯となった。

渡辺名誉会員は「総会出席者の年代が下がること」を希望され、織内名誉

会員は「マカルーの朗報がこないことが気がかり」と述べられたが、この言葉ながらに、坂本委員からは刻一刻最新ニュースが発表された。

日大隊チョモランマ北東稜登頂成功に関し指名を受けた松田雄一評議員は、車が入って高度をあげた日大隊と異なり、マカルーの場合大雪のため、過酷な条件の中での行動を強いられているなど説明。会場は一喜一憂の雰囲気。

最後に村木新会長が「日本山岳会は登山活動を推進し、自然保護、環境問題に取り組み、若い人を会に取り込み、中高年を励まし盛りたてる」ことが肝要だとし「年配者はより元気に、若い人は年配者をやっつける気持ちで」と締めくくった。

(文責・高田真哉)

■平成七年度 理事・監事・評議員

会長 (新) 村木潤次郎  
副会長 (再) 中村 純二

(新) 斎藤 惇生  
(新) 宮下 秀樹

(新) 大屋 悌二  
(新) 吉永 英明

(財務) (再) 中川 武  
(総務・集会) (再) 大谷 亮

(海外連絡・青年) (再) 松浦祥次郎  
(理事(科学)) (再) 伊藤 敏

(会報) (再) 水野 勉  
(図書管理・フィルムビデオ)

(再) 水野 勉

(図書)

(医療)

(高所登山)

(山研・資料)

(学生)

(山岳)

(青年・遭難)

(指導・海外)

(自然保護)

監事

常任評議員

評議員

## 会長就任にあたって

相互の相違を理解し、共存を



挨拶する村木新会長

村木潤次郎

本来登山を志す人々の同志的な集団であるはずの山岳会はどうなのでしょう。か。

今、会が直面している課題とか問題点を考えてみても、やはり同じような傾向と多様性をさばき切れずに悩まされているようです。ざっと項目をあげてみると、

(1)登山活動の推進 (2)環境問題への対応 (3)地方と東京との関係(支部問題) (4)青年層会員の拡充、育成 (5)中高年登山者の対策

等々ですが、一つ一つの課題に内在する矛盾、問題点相互の対立など、これらの課題を推進するのに単純に割り切れない要素が混在しているようです。

登山活動にしても、アルピニズムに根ざす、より高度な登山の推進こそ当会の目標でしょうが、田口二郎先輩が『東西登山史考』で触れられているように、日本の登山者の原形である静観的な登山も無視できません。とくに会員の大半を占める中高年の人々はこの種の登山スタイルに属する場合が多く、かつての若き精鋭も年を取れば矛を収めざるを得ません。

したがって、本音と建前をうまく組み合わせてどうやって会の登山活動を活性化させるか、ということが課題になるでしょう。

自然保護、環境対策も同じです。政治的経済的な大きな問題は別として、登山者は自ずと自然破壊に力を貸しているのだという自覚を持って、自分たちの大切な楽しみと修業の場である山にどう対応するかということでしょう。登山活動を推進すれば登山者が増え、人が多く関われば山は汚れ荒れる、これが現実です。

このようにいわば矛盾と混沌を抱えて日本山岳会は今年九十周年を迎えつつあります。その記念事業の先頭を切ったことのない困難な稜線を克服して八名もの若い隊員が登頂し、見事第一歩を飾ってくれました。

これから地方支部別の行事、東京の記念フォーラムなどまだまだ宿題が残っています。その準備の過程でも相反する考え方や、相剋がないとはいえません。先に述べたやや大きな問題の処理についても、目先の行事に関わるどころでも、至るところに対立する要素が散在していますが、これらをそのまま受け入れて、相互の相違を良く※

(再) 南井 英弘  
(再) 堀井 昌子  
(再) 渡邊 雄二  
(再) 溝口 洋三  
(再) 山本 宗彦  
(新) 田辺 寿  
(新) 宇田川 芳伸  
(新) 熊崎 和宏  
(新) 大蔵 喜福  
(再) 川崎 巖  
(新) 石橋 正美  
(再) 神崎 忠男  
(再) 重廣 恒夫  
(新) 小倉 茂暉  
(新) 大森 弘一郎  
(新) 村井 龍一  
(新) 大倉 昌身  
(再) 小須田 喜夫  
(再) 松田 雄一  
(再) 田中 弘美  
(再) 梅木 秀徳  
(再) 宮本 数男  
(新) 藤平 正夫  
(新) 穴田 雪江  
(新) 山口 俊輔  
(新) 長尾 梯夫  
(新) 中村 太郎  
(新) 吉田 宏  
(新) 長坂 博  
(新) 田邊 史  
(新) 竹内 哲夫

# MAKALU

## マカルー東稜・登頂記

山本 篤

五月二十一日午前二時、予めセットしておいた荒井隊員の腕時計のアラームが目覚める。昨日は午後九時頃、一人毎分〇・五リットルの酸素を使用し、それぞれが就寝態勢に入った。

私はなかなか寝つくことができず、ひょっとして自分だけ酸素が来ていないのでは、と思ったりもしたが、何時の間にか寝たらしく二時間ほど熟睡しただろうか。それでかえって実に眠い。しかし今日はアタックなのだ。これまでの全隊員の努力はすべて本日のためであったと思うと、少々プレッシャーを感じる。果たして全員無事登って帰って来られるだろうか。

そんなことを考えながら朝食の準備に取りかかる。モーニング・ティールーム、そして食後のお茶、さらにもう一度水分をとり、気合いを入れて靴をはく。この気合いを入れて身支度することがアタックの第一歩だと、若い松原、荒井の二名を激励し、自らの

緊張感を高め、外へ出る。期待していた無風快晴とまではいかないまでも、まずまずの天気だ。

まず私がトップでアタック・キャンプを出発する。調子は上々で、昨日、田辺さんと二人で偵察を行った七八〇メートル地点まで、今日は何と三十



5月21日PM0:45 マカルー頂上に立つ田辺(左)と荒井(右)隊員

五分、三分の一の所要時間で着く。他の三名も元氣よく登って来る。やはり毎分二リットルの酸素が効いているのだろう。私は従来、八〇〇メートルくらいまでは、よく馴化していれば、酸素を使うより空身で歩いたほうが楽なのでは、と思っていたが、今回使用

した軽く容量もあるロシア製のボンベは、この考えを見事に覆した。

七八〇メートルから上部は、しばらくセラック帯を縫うように進み、さらに比較的楽な雪面を登って、午前八時には八二〇メートルに達した。あと二五〇メートル、これは楽勝だと思ったが、やはり甘かった。まず頂稜へのルートがはつきりせず、迷ったあげく右手上のコルを目指す、ポロボロの岩場に突き当たり、それを一時間かけて突破した。さらに頂稜上は、強風と予想以上の悪さに、一ピッチフィックスを固定し、その他の場所は各自の責任でもってジリジリと頂上へ迫る。途中荒井隊員が、微妙な一歩のふんぎりがつかず、田辺さんがロープを持って下ると言うタイムロスもあったが、十二時四十分には、頂上手前五メートルに全員が到着。それからは狭い頂上に、田辺、山本、松原、荒井と、年の順に次々と手を掛けた。

こうして、中国側からのマカルーの登頂は成った。みな、歓喜の表情の中にもそれぞれの思いがあることが見てとれる。そんなことを感じる自分に少々驚きつつ、私自身は、亡き大西宏のことを想った。五年かかってようやく彼の足跡に追いつくことができた。あとは、無事下ることだ。そう自分自身に言い聞かせ、頂上をあとにした。

※理解し合いながら共存を図ることができないかと考えております。

百周年にはどうなるか、二十一世紀の目標は、など大言壮語することには少し時間をかけ、変化を見極めたほうがよさそうです。自分の器の小ささを言い訳にするようですが、矛盾と混沌を糧として、山岳会がさらに大きく発展する過程の一こまを見つめ、お守りさせていたたく、それが私たち現役員会の仕事ではないかと思うのです。

会員の皆様のお力添えとご批判を期待して、会長就任のご挨拶とさせていただきます。

味の技、心でつくる



むしし 坊 日比谷店  
(東宝ツインタワービル9F)  
千代田区有楽町1-5-2 ☎03-3504-1905  
むしし 坊 麹町店  
(有楽町線麹町駅西口)  
千代田区麹町4-2-6 ☎03-3230-2313  
むしし 坊 神田西口店  
(神田西口通り商店街)  
千代田区内神田2-9-9 ☎03-3252-5015  
友膳ゆうぜん  
(半蔵門線半蔵門駅3分)  
千代田区平河町1-3-12 ☎03-3288-5891

むしし 坊 番町店 (日本TV通り五番町交差点角)  
千代田区六番町4 ☎03-3234-3357



## 収 支 計 算 書

平成6年4月1日から平成7年3月31日まで

|                 |            |             |             |
|-----------------|------------|-------------|-------------|
| 保 險 料           | 430,000    | 405,850     | 24,150      |
| 修 繕 費           | 200,000    | 20,030,018  | △19,830,018 |
| 租 税 公 課         | 600,000    | 1,846,350   | △1,246,350  |
| 光 熱 水 料 費       | 500,000    | 679,127     | △ 179,127   |
| 電 話 料           | 400,000    | 516,199     | △ 116,199   |
| 会 議 費           | 300,000    | 282,208     | 17,792      |
| 什 器 備 品 費       | 350,000    | 722,935     | △ 372,935   |
| 振 替 手 数 料       | 300,000    | 305,420     | △ 5,420     |
| 支 部 運 営 費       | 3,500,000  | 3,794,500   | △ 294,500   |
| 福 利 厚 生 費       | 180,000    | 210,063     | △ 30,063    |
| 事 務 所 管 理 費     | 750,000    | 630,596     | 119,404     |
| そ の 他 管 理 費     | 2,300,000  | 2,429,144   | △ 129,144   |
| 負 担 金           | 135,000    | 195,000     | △ 60,000    |
| 賃 借 料           | 0          | 3,300,000   | △3,300,000  |
| 雑 費             | 600,000    | 942,763     | △ 342,763   |
| 管 理 費 計         | 28,395,000 | 53,458,450  | △25,063,450 |
| 3. 固定資産取得支出     |            |             |             |
| 什器備品購入支出        | 0          | 0           | 0           |
| 固定資産取得支出計       | 0          | 0           | 0           |
| 4. 特定預金支出       |            |             |             |
| 図書出版研究基金支出      | 0          | 80,000      | △ 80,000    |
| 長期計画積立金支出       | 3,000,000  | 8,580,000   | △5,580,000  |
| 終身会費積立金支出       | 0          | 1,290,000   | △1,290,000  |
| 退職給与引当預金支出      | 1,000,000  | 1,000,000   | 0           |
| 特定預金支出計         | 4,000,000  | 10,950,000  | △6,950,000  |
| 5. 予 備 費        |            |             |             |
| 予 備 費           | 1,500,000  | 0           | 1,500,000   |
| 当期支出合計(C)       | 68,767,000 | 105,678,438 | △36,911,438 |
| 当期収支差額(A)-(C)   | △5,697,000 | △14,987,476 | 9,290,476   |
| 次期繰越収支差額(B)-(C) | 25,411,516 | 16,121,040  | 9,290,476   |

## 正味財産増減計算書

平成6年3月31日～7年3月31日

| 科 目        | 金 額        |             |
|------------|------------|-------------|
| I. 増加の部    |            |             |
| 1. 資産増加額   |            |             |
| 図書出版研究基金   | 80,000     |             |
| 長期計画積立金    | 8,580,000  |             |
| 終身会費積立金    | 1,290,000  |             |
| 退職給与引当預金   | 1,000,000  | 10,950,000  |
| 増加額合計      |            | 10,950,000  |
| II. 減少の部   |            |             |
| 1. 資産減少額   |            |             |
| 当期収支差額     | 14,987,476 |             |
| 什 器・備 品    | 95,000     |             |
| 長期計画積立金    | 20,000,000 |             |
| 棚 卸 資 産    | 735,188    | 35,817,664  |
| 2. 負債増加額   |            |             |
| 退職給与引当金繰入額 |            | 1,000,000   |
| 減少額合計      |            | 36,817,664  |
| 当期正味財産減少額  |            | 25,867,664  |
| 前期繰越正味財産額  |            | 377,825,946 |
| 期末正味財産合計額  |            | 351,958,282 |

| 科 目          | 予算額        | 決算額         | 差 異         | 備考   |
|--------------|------------|-------------|-------------|------|
| I. 収 入 の 部   |            |             |             |      |
| 1. 基本財産運用収入  |            |             |             |      |
| 基本財産利息収入     | 350,000    | 192,305     | 157,695     |      |
| 2. 会費・入会金収入  |            |             |             |      |
| 入 会 金 収 入    | 4,500,000  | 3,720,000   | 780,000     |      |
| 復 活 会 費 収 入  | 0          | 180,000     | △ 180,000   |      |
| 通 常 会 費 収 入  | 45,000,000 | 48,096,000  | △3,096,000  |      |
| 終 身 会 費 収 入  | 0          | 1,290,000   | △1,290,000  |      |
| 会費・入会金収入計    | 49,500,000 | 53,286,000  | △3,786,000  |      |
| 3. 事 業 収 入   |            |             |             |      |
| 広 告 料 収 入    | 1,500,000  | 1,577,081   | △ 77,081    |      |
| 印 税 収 入      | 20,000     | 3,823       | 16,177      |      |
| 刊行物売上収入      | 1,000,000  | 379,030     | 620,970     |      |
| その他事業収入      | 4,000,000  | 3,314,830   | 685,170     |      |
| 山研使用料収入      | 2,700,000  | 2,827,630   | △ 127,630   |      |
| 事 業 収 入 計    | 9,220,000  | 8,102,394   | 1,117,606   |      |
| 4. 補助金等収入    |            |             |             |      |
| 補 助 金 収 入    | 0          | 3,980,000   | △3,980,000  | (注)1 |
| 5. 寄 付 金 収 入 |            |             |             |      |
| 寄 付 金 収 入    | 0          | 0           | 0           |      |
| 募 金 収 入      | 0          | 0           | 0           |      |
| 6. 雑 収 入     |            |             |             |      |
| 受 取 利 息      | 3,500,000  | 3,096,609   | 403,391     |      |
| 雑 収 入        | 500,000    | 2,033,654   | △1,533,654  |      |
| 雑 収 入 計      | 4,000,000  | 5,130,263   | △1,130,263  |      |
| 7. 特定預金取崩収入  |            |             |             |      |
| 長期計画積立金取崩収入  |            | 20,000,000  | △20,000,000 | (注)2 |
| 当期収入合計(A)    | 63,070,000 | 90,690,962  | △27,620,962 |      |
| 前期繰越収支差額     | 31,108,516 | 31,108,516  | 0           |      |
| 収 入 合 計 (B)  | 94,178,516 | 121,799,478 | △27,620,962 |      |

(注) 1. 「環境事業団 環境基金」助成金 ¥3,980,000-

2. 事務所改修のため長期計画積立金取崩 ¥20,000,000-

| 科 目          | 予算額        | 決算額        | 差 異        | 備考 |
|--------------|------------|------------|------------|----|
| II. 支 出 の 部  |            |            |            |    |
| 1. 事 業 費     |            |            |            |    |
| 出 版 費        | 12,313,000 | 10,737,935 | 1,575,065  |    |
| 図 書 管 理 費    | 805,000    | 798,742    | 6,258      |    |
| 調 査 研 究 費    | 2,139,000  | 5,568,786  | △3,429,786 |    |
| 指 導 費        | 965,000    | 829,807    | 135,193    |    |
| 支 部 関 係 費    | 4,000,000  | 4,283,238  | △ 283,238  |    |
| 海 外 諸 関 係 費  | 250,000    | 219,496    | 30,504     |    |
| 山岳研究所運営費     | 3,000,000  | 3,868,412  | △ 868,412  |    |
| 海外登山補助費      | 2,000,000  | 2,000,000  | 0          |    |
| その他事業費       | 3,000,000  | 7,059,168  | △4,059,168 |    |
| 印刷・製本費       | 1,000,000  | 754,744    | 245,256    |    |
| 通 信 運 搬 費    | 5,400,000  | 5,149,660  | 250,340    |    |
| 事 業 費 計      | 34,872,000 | 41,269,988 | △6,397,988 |    |
| 2. 運 営 管 理 費 |            |            |            |    |
| 給 料・手 当      | 12,700,000 | 12,111,800 | 588,200    |    |
| 文 具・消 耗 品 費  | 250,000    | 242,591    | 7,409      |    |
| 印 刷・製 本 費    | 1,500,000  | 1,324,975  | 175,025    |    |
| 旅 費・交 通 費    | 1,800,000  | 1,713,010  | 86,990     |    |
| 通 信・運 搬 費    | 1,600,000  | 1,775,991  | △ 175,991  |    |

## 貸 借 対 照 表

平成7年3月31日現在

2. 基本財産の増減額およびその残高は、次のとおりである。

| 科 目          | 前期末残高     | 当期増加 | 当期減少 | 当期末残高     |
|--------------|-----------|------|------|-----------|
| 貸付信託(三井信託銀行) | 2,380,000 | 0    | 0    | 2,380,000 |
| " (日本信託銀行)   | 420,000   | 0    | 0    | 420,000   |
| " (中央信託銀行)   | 5,200,000 | 0    | 0    | 5,200,000 |
| 合 計(基本金)     | 8,000,000 | 0    | 0    | 8,000,000 |

3. 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

| 科 目      | 前期末残高      | 当期末残高      | 備 考 |
|----------|------------|------------|-----|
| 現 金 預 金  | 29,041,446 | 1,991,100  |     |
| 未 収 会 費  | 3,117,000  | 3,569,000  |     |
| 仮 払 金    | 0          | 11,800,000 |     |
| 合 計      | 32,158,446 | 17,360,100 |     |
| 前 受 会 費  | 200,000    | 151,000    |     |
| 預 り 金    | 849,930    | 1,088,060  |     |
| 合 計      | 1,049,930  | 1,239,060  |     |
| 次期繰越収支差額 | 31,108,516 | 16,121,040 |     |

4. 固定資産の取得価格、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

| 科 目     | 取 得 価 格     | 減価償却累計額 | 当期末残高       |
|---------|-------------|---------|-------------|
| 建 物     | 144,423,000 | 0       | 144,423,000 |
| 什 器 備 品 | 6,085,232   | 0       | 6,085,232   |
| 合 計     | 150,508,232 | 0       | 150,508,232 |

## 財 産 目 録

平成7年3月31日

| 科 目            | 金           | 額          |
|----------------|-------------|------------|
| [1] 資産の部       |             |            |
| 1. 流 動 資 産     |             |            |
| 現金預金           |             |            |
| 現金 現金手許有高      | 103,588     |            |
| 振替貯金           |             |            |
| 東京地方貯金局        | 894,321     |            |
| 普通預金           |             |            |
| あさひ銀行市ヶ谷支店     | 956,897     |            |
| 三菱銀行市ヶ谷支店      | 19,234      |            |
| 三和銀行本郷支店       | 6,461       |            |
| 中央信託銀行本店       | 638         |            |
| 三井信託銀行新宿       |             |            |
| 西口支店           | 9,068       |            |
| 日本信託銀行本店       | 893         |            |
| 未収会費 380名分     | 3,569,000   |            |
| 仮払金            | 11,800,000  |            |
| 棚卸資産 *1        | 3,901,840   |            |
| 流動資産合計         |             | 21,261,940 |
| 2. 固 定 資 産     |             |            |
| (1) 基本財産       |             |            |
| 貸付信託           |             |            |
| 三井信託銀行本店       | 2,380,000   |            |
| 日本信託銀行本店       | 420,000     |            |
| 中央信託銀行本店       | 5,200,000   |            |
| 基本財産合計         | 8,000,000   |            |
| (2) その他固定資産 *2 |             |            |
| 土 地 57.91484㎡  | 46,297,170  |            |
| 建 物 432.63㎡    | 144,423,000 |            |

| 科 目         | 金           | 額           |
|-------------|-------------|-------------|
| [1] 資産の部    |             |             |
| 1. 流 動 資 産  |             |             |
| 現 金         | 103,588     |             |
| 振 替 貯 金     | 894,321     |             |
| 普 通 預 金     | 993,191     |             |
| 未 収 会 費     | 3,569,000   |             |
| 仮払金(注1)     | 11,800,000  |             |
| 棚 卸 資 産     | 3,901,840   |             |
| 流動資産合計      |             | 21,261,940  |
| 2. 固 定 資 産  |             |             |
| 基 本 財 産     |             |             |
| 貸 付 信 託     | 8,000,000   |             |
| 基本財産合計      | 8,000,000   |             |
| その他固定資産     |             |             |
| 土 地         | 46,297,170  |             |
| 建 物         | 144,423,000 |             |
| 什 器 備 品     | 6,085,232   |             |
| 敷 金         | 300,000     |             |
| 図書出版研究基金    | 4,820,000   |             |
| 長期計画積立金     | 24,550,000  |             |
| 海外登山基金      | 89,110,000  |             |
| 終身会費積立金     | 8,350,000   |             |
| 退職給与引当預金    | 5,665,000   |             |
| その他固定資産合計   | 329,600,402 |             |
| 固定資産合計      |             | 337,600,402 |
| 資 産 合 計     |             | 358,862,342 |
| [2] 負債の部    |             |             |
| 1. 流 動 負 債  |             |             |
| 前 受 会 費     | 151,000     |             |
| 預 り 金       | 1,088,060   |             |
| 流動負債合計      |             | 1,239,060   |
| 2. 固 定 負 債  |             |             |
| 退職給与引当金     | 5,665,000   |             |
| 固定負債合計      |             | 5,665,000   |
| 負 債 合 計     |             | 6,904,060   |
| [3] 正味財産の部  |             |             |
| 正 味 財 産     |             |             |
| (うち基本金)     |             | 8,000,000   |
| (当期正味財産減少額) |             | 25,867,664  |
| 負債及び正味財産合計  |             | 358,862,342 |

(注) 1. マカール峰登山隊費用

## 計算書類に対する注記

## 1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法について  
基本財産の貸付信託は、総平均法による原価基準を採用している。
- (2) 固定資産の減価償却について  
建物及び什器備品の減価償却は行っていない。
- (3) 引当金の計上基準について  
退職給与引当金は期末退職給与の要支給額の135%に相当する額を計上している。
- (4) 資金の範囲について  
資金の範囲には、現金預金、未収会費、仮払金、前受会費及び預り金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記3に記載のとおりである。

|                            |     |       |           |     |
|----------------------------|-----|-------|-----------|-----|
| 閲覧用テーブル(木製2台)              | 53. | 9.28  | 250,000   | 図書室 |
| ライティングビューロー 木製             | 54. | 6.23  | 280,300   | "   |
| フィルム収納キャビネット<br>(スチール製品)   | 56. | 8.8   | 254,000   | "   |
| 図書カード容器(木製3段)              | 56. | 9.12  | 200,000   | "   |
| 書棚(木製2段)                   | 56. | 12.22 | 500,000   | "   |
| 16mm映写機16-CL(MO)           | 61. | 5.13  | 156,000   | "   |
| 東芝パーソナルワープロ<br>WJ-R70F II  | 62. | 3.12  | 89,000    | 事務所 |
| 木製書架ガラス戸付(2台)              | 62. | 9.24  | 700,000   | 図書室 |
| シャープ液晶ビジョン一式               | 2.  | 7.19  | 587,932   | 事務所 |
| 世界対応VTR 001 NWV            | 4.  | 5.11  | 250,000   | "   |
| 小型気象ファクシミリ JAX-9           | 4.  | 10.19 | 320,000   | "   |
| ナショナル冷凍冷蔵庫<br>NR-041VP2-H  | 5.  | 3.20  | 250,000   | 山 研 |
| ナショナル29インチテレビ<br>TH-29VS35 | 5.  | 3.10  | 280,000   | "   |
| ナショナルBS付ビデオ<br>HV-BS50S    | 5.  | 3.20  | 250,000   | "   |
| 合 計                        |     |       | 6,085,232 |     |

## 財産目録記載外のその他物品リスト(主として受贈益)

## 1 絵画

| 題 名        | 種類・号数    | 作 者 名 | 掲載、保管場所   |
|------------|----------|-------|-----------|
| 白 馬 岳      | 油 A-50   | 中村清太郎 | 大町山岳博物館   |
| 富 士 山 麓    | 油 A-25   | 茨木猪之吉 | 河口湖町立美術館  |
| 田代池の白樺     | 油変形 6    | 中村清太郎 | 談話室       |
| 群 狼        | 墨 絵      | 石井 鶴三 | 図 書 室     |
| 針 の 木 峠    | 油 - 10   | 茨木猪之吉 | 図 書 室     |
| 伊豆半島       | 油 - 10   | 茨木猪之吉 | 松本アルプス山岳館 |
| 徳本峠から穂高連峰  | 墨 絵      | 石田 吟松 | 松本アルプス山岳館 |
| 初冬の両神山     | 油 - 10   | 茨木猪之吉 | 図 書 室     |
| 鳥(カット原画)   | 墨 絵      | 石井 鶴三 | 図 書 室     |
| メールドグラス    | エッチング    |       | 図 書 室     |
| モンブラン      | エッチング    |       | 松本アルプス山岳館 |
| カンチェンジュンガ  | エッチング    | シネライギ | 図 書 室     |
| ユングフラウ     | 油        | 山里 寿男 | 集 会 室     |
| 涸沢より北穂高    | 水彩 - 6   | 山里 寿男 | 松本アルプス山岳館 |
| 槍ヶ岳初夏      | 油 - 10   | 中村清太郎 | 集 会 室     |
| カンチェンジュンガ  | パステル     | 矢崎千代二 | 談話室       |
| 北穂高滝谷      | 油 - 25   | 足立源一郎 | 談話室       |
| 或朝の槍ヶ岳     | 油 - 25   | 足立源一郎 | 集 会 室     |
| 北穂高主峰      | 油 - 25   | 足立源一郎 | 談話室       |
| 槍ヶ岳        | 油 - P 8  | 足立源一郎 | 集 会 室     |
| タンポチの僧院    | 水彩 - 4   | 清野 恒  | 松本アルプス山岳館 |
| シェルの親子     | 水彩 - 4   | 清野 恒  | 松本アルプス山岳館 |
| 冬の山(清天山)   | 墨 絵      | 近藤 茂吉 | 松本アルプス山岳館 |
| 梓川秋色       | 油 - 12   | 後藤 三男 | 集 会 室     |
| 旧上高地山岳研究所  | 版画 - 8   | 松田 敏男 | 談話室       |
| 旧上高地山岳研究所  | 水彩 - 10  | 松田 敏男 | 談話室       |
| 焼岳秋趣       | 版画 - 8   | 鈴木 正俊 | 集 会 室     |
| ナムチャバルワ峰暮色 | 油 - 10   | 神原 忠夫 | 談話室       |
| 白馬雪田       | 日本画      | 丸山 晩霞 | 談話室       |
| 上高地秋景      | 油 - F 20 | 後藤 三男 | 上高地山岳研究所  |
| マチャブチャレ    | 油 - 20   | 武井 清  | 集 会 室     |
| 朝 霧        | 水彩 - 8   | 越智 英夫 | 集 会 室     |
| 山          | 油 - 6    | 辰沼 広吉 | 集 会 室     |
| 白 樺        | 油 - 6    | 茨木猪之吉 | 集 会 室     |

\* 他の絵画、写真 省略

|                       |             |             |             |
|-----------------------|-------------|-------------|-------------|
| 什器・備品                 | 6,085,232   |             |             |
| 敷 金                   | 300,000     |             |             |
| 図書出版研究基金(定期預金・あさひ市ヶ谷) | 4,820,000   |             |             |
| 長期計画積立金(定期預金・三菱市ヶ谷)   | 16,550,000  |             |             |
| 長期計画積立金(普通預金・あさひ市ヶ谷)  | 8,000,000   |             |             |
| 海外登山基金(定期預金・あさひ市ヶ谷)   | 89,110,000  |             |             |
| 終身会費積立金(定期預金・あさひ市ヶ谷)  | 8,170,000   |             |             |
| 終身会費積立金(普通預金・あさひ市ヶ谷)  | 180,000     |             |             |
| 退職給与引当預金(定期預金・あさひ市ヶ谷) | 5,665,000   |             |             |
| その他固定資産合計             | 329,600,402 |             |             |
| 固定資産合計                |             | 337,600,402 |             |
| 資産合計                  |             |             | 358,862,342 |
| [2] 負債の部              |             |             |             |
| 1. 流動 負債              |             |             |             |
| 前受会費 16名分             | 151,000     |             |             |
| 預り金 職員に対する源泉所得税その他    | 1,088,060   |             |             |
| 流動負債合計                |             | 1,239,060   |             |
| 2. 固定 負債              |             |             |             |
| 退職給与引当金               | 5,665,000   |             |             |
| 固定負債合計                |             | 5,665,000   |             |
| 負債合計                  |             |             | 6,904,060   |
| 正味財産                  |             |             | 351,958,282 |

## 注1) 棚卸資産内訳

| 種 類     | 摘 要          | 金 額       |
|---------|--------------|-----------|
| 刊 行 物   | 山岳総索引、山岳複製版等 | 1,379,125 |
| 服飾品・その他 | クラブタイ、タイ止等   | 2,522,715 |
| 合 計     |              | 3,901,840 |

## 注2) その他固定資産内訳

## 1 建物及び土地

| A 事務所及び図書室 |                           |  |             |
|------------|---------------------------|--|-------------|
| 場所         | 東京都千代田区四番町5番4             |  |             |
| 構造         | 鉄筋コンクリート造、陸屋根、地下1階付5階建    |  |             |
|            | (事務所)区分所有建物1階部分 103.32㎡   |  |             |
|            | 宅地持分 1,124.56㎡×339/10,000 |  |             |
|            | =38.122584㎡               |  |             |
|            | (図書室)区分所有建物1階部分 55.22㎡    |  |             |
|            | 宅地持分 1,124.56×176/10,000  |  |             |
|            | =19.792256㎡               |  |             |
| 計          | 158.54㎡ 宅地持分 57.91484㎡    |  | 72,720,170  |
| B 上高地山岳研究所 |                           |  |             |
| 場所         | 長野県南安曇郡安曇村4469番地1         |  |             |
| 構造         | 鉄筋コンクリート造(一部木造)1棟         |  |             |
|            | 274.09㎡                   |  | 118,000,000 |
| 合 計        |                           |  | 190,720,170 |

## 2 什器備品

| 品 名              | 取得年月日     | 取得価格      | 所 在 |
|------------------|-----------|-----------|-----|
| 書庫内移動書架一式コンパックル  | 53. 2. 10 | 1,500,000 | 図書室 |
| 応接セット一式(イス テーブル) | 53. 8. 2  | 218,000   | 談話室 |

編笠山、仙丈岳 8月26～27日

- \*青年部OB懇談会(青年) 8月上旬
- \*全国集会(自然保護) 9月
- \*ビールパーティー(集会) 9月2日
- \*海外登山報告会 ムスターグ・アタ山群(青年) 9月6日
- \*90周年ブロック別式典(東北ブロック) 姫神山 9月9～10日
- \*探索山行「奥美濃の植物」(科学) 大日ヶ岳 9月
- \*高所登山研究委員会(高所) 9月
- \*海外登山報告会 カンチェンジュンガ峰(青年) 10月4日
- \*写真撮影会(フィルムビデオ) 10月
- \*小川山岩登り集会(青年、学生) 小川山 10月
- \*台湾訪日登山隊合同登山及び歓迎会(海外) 10月
- \*カナダ山岳会会長来日歓迎会および講演会(海外) 10月
- \*イベント(集会) 10月
- \*第3回山の本シリーズ(図書) 10月
- \*支部長会議(総務) 10月14日
- \*創立90周年記念式典(総務) 新高輪プリンス 10月14日
- “ 記念フォーラム(総務) “ 10月14日
- \*新入会員懇談会(総務) 10月21日
- \*90周年ブロック別式典(北陸ブロック) 石川医王山10月21～22日
- \*講習会 日大チョモランマ登山隊北東稜のタクティクス(高所登山研究) 11月
- \*90周年ブロック別式典(北海道ブロック) 札幌 11月11日
- \*第24回図書交換会(図書) 11月
- \*遭難を防ぐための講演会(遭難対策) 11月
- \*加盟校大学山岳部監督会議(青年、学生) 12月初旬
- \*マラソン大会(学生) 皇居 11月中旬
- \*冬山講習会(学生) 12月上旬
- \*沼尻スキー下見(集会) 12月23～24日
- \*沼尻スキー(集会) 1月14～15日
- \*90周年ブロック別式典(東海ブロック) 1月20～21日
- \*冬山報告会(学生) 1月下旬
- \*90周年ブロック別式典(関西ブロック) 1月27日～28日
- \*海外登山報告会冬季シベリア・ポベータ峰(青年) 2月7日
- \*第24回山岳懇談会(図書) 2月
- \*映画会(フィルムビデオ) 2月
- \*写真撮影会(フィルムビデオ) 2月
- \*支部事務局担当者会議(総務) 2月24～25日
- \*アイスクライミング講習会(青年、学生) 2月下旬
- \*第27回山岳図書を語る夕べ(図書) 3月
- \*山スキー講習会(指導) 3～4月
- \*技術講習会(指導) 未定
- \*オリエンテーション(総務) 3月16日
- \*観察山行(自然保護) 未定
- \*森林部会研究会(自然保護) 未定
- \*プラブーツ突発破壊4団体協議会 毎月
- \*対外国、外部団体との交流、親睦会

## (ロ) 研究会

- \*高峰登山を展望する海外登山研究会(高所登山) 2月
- \*レスキュー協議会(遭難対策) 毎月
- \*レスキュー対策研究会(青年) 11月1日
- \*海外登山について青年対策研究会(青年) 12月6日

## (ハ) 講演会シンポジウム

- \*講演会「スキー力学のモデル…スキーロボットの実験」(科学) 本会 5月
- \*第15回日本登山医学シンポジウムに対する後援(医療) 6月9～10日
- \*無線通信と遭難防止(科学) 11月
- \*シンポジウム(自然保護) 9月
- \*雪崩ビーコン等講習会(指導) 未定
- \*講演会(資料) 11月

## 2. 図書

| 種 類 | 摘 要             | 冊 数   |
|-----|-----------------|-------|
| 和 書 | 平成6年度 受入冊数 157冊 | 8824冊 |
| 洋 書 | 平成6年度 受入冊数 55冊  | 3170冊 |

## 3. フィルム・ビデオ

|      |                |
|------|----------------|
| フィルム | 15点 「マナスルに立つ」他 |
| ビデオ  | 105本           |

## 監 査 報 告

社団法人日本山岳会平成6年度の収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、および財産目録を監査し、正確妥当なことを認めます。  
平成7年4月10日

社団法人 日本山岳会 監事 中島 伊平  
監事 川崎 巖

## 日本山岳会平成7年度事業計画(案)

(7.4.1～8.3.31)

## 1. 登山の指導と奨励に必要な集会、研究会、講習会および展覧会の開催

- (イ) 集会
- \*新入会員歓迎さくらハイク(集会) 4月
- \*山の自然学現地講座(自然保護) 年間
- 都内講座4回
- 現地講座13回
- 実践活動8件: 上高地インタープリター、木曽駒インタープリター
- 登山道破壊ウォッチ、ネパール植林、その他
- \*山岳研究所オープン(資料) 4月
- \*海外登山報告会 シータ・チュチュラ峰(青年) 4月5日
- \*八甲田スキー(指導) 4月22～24日
- \*海外登山報告会 タンラ・ツーシェン峰(青年、学生) 5月10日

- \*フリークライミング集会(学生) 東京近郊 5月中旬
- \*第19回若葉会山行偵察(集会) 5月13～14日
- \*通常総会(総務) グリーンホテル 5月20日
- \*支部長会議(総務) グリーンホテル 5月20日
- \*リーダー討論会(学生) 5月下旬
- \*第2回古典の道を歩く(図書) 笹子峠 5月27日
- \*第19回若葉会山行(集会) 守門岳 6月10日
- \*第49回ウエストン祭(信濃支部) 上高地 6月4日
- \*谷川岳合宿(青年、学生) 6月上旬
- \*写真撮影会(フィルムビデオ) 6月上旬
- \*写真交換会(集会) 6月27日
- \*90周年ブロック別式典(九州ブロック) 九重山 6月17～18日
- \*90周年ブロック別式典(京都・岐阜ブロック) 7月8～9日
- \*海外登山報告会 マッキンリー(青年、学生) 7月上旬
- \*フランス国立スキー登山学校との交流(海外) 7～8月
- \*90周年ブロック別式典(中部ブロック)

|             |            |            |             |
|-------------|------------|------------|-------------|
| 雑収入計        | 3,500,000  | 4,000,000  | △ 500,000   |
| 7. 特定預金取崩収入 | 0          | 0          | 0           |
| 当期収入合計(A)   | 64,720,000 | 63,070,000 | 1,650,000   |
| 前期繰越収支差額    | 16,121,040 | 31,108,516 | △14,987,476 |
| 収入合計(B)     | 80,841,040 | 94,178,516 | △13,337,476 |

\*講演会(医療) 11月  
\*講演会「マッキンリー気象観測報告」(科学) 2月

2. 登山施設の運用、その他登山のための適切な事業  
\*上高地山岳研究所の運用、資料室開設 5~10月  
\*受入れ資料保管  
\*各博物館美術館との提携強化  
\*海外遠征の記録、会合、行事等の記録的フィルムのビデオテープ化による保存

3. 山岳遭難の予防とその対策に関する企画および指導

4. 自然保護活動の推進  
\*自然保護活動のミニコミ誌発行  
\*山の自然保護指導者の養成

5. 機関紙等の発行  
\*「山岳」90(1995)号の発行  
\*会報「山」599~610号の発行

6. 国内および外国山岳団体との連絡、情報交換  
\*国内関係団体(日山協、都岳連、HAT-J、その他)との密接な連絡  
\*海外登山団体との機関誌の交換および情報誌の購入

7. 海外登山  
\*マッキンリー気象観測隊の派遣 6月  
\*第7次海外登山(ムスターグ・アタ山群) 7~8月

8. その他目的を達成するために必要な事業  
\*山岳図書および2万5千分の1地図整備  
\*その他目的を達成するために必要な事業を行う

## 収支予算書(案)

平成7年4月1日から平成8年3月31日まで

| 科 目             | 予 算 額      | 前年度予算額     | 増 減         | 備考 |
|-----------------|------------|------------|-------------|----|
| Ⅱ支出の部           |            |            |             |    |
| 1. 事業費          |            |            |             |    |
| 出版費             | 10,630,000 | 12,313,000 | △1,683,000  |    |
| 図書管理費           | 805,000    | 805,000    | 0           |    |
| 調査研究費           | 2,075,000  | 2,139,000  | △ 64,000    |    |
| 指導費             | 965,000    | 965,000    | 0           |    |
| 支部関係費           | 4,200,000  | 4,000,000  | 200,000     |    |
| 海外諸関係費          | 250,000    | 250,000    | 0           |    |
| 山岳研究所運営費        | 3,400,000  | 3,000,000  | 400,000     |    |
| 海外登山補助費         | 2,000,000  | 2,000,000  | 0           |    |
| その他事業費          | 3,500,000  | 3,000,000  | 500,000     |    |
| 印刷・製本費          | 1,000,000  | 1,000,000  | 0           |    |
| 通信運搬費           | 5,400,000  | 5,400,000  | 0           |    |
| 事業費計            | 34,225,000 | 34,872,000 | △ 647,000   |    |
| 2. 運営管理費        |            |            |             |    |
| 給料・手当           | 13,000,000 | 12,700,000 | 300,000     |    |
| 文具・消耗品費         | 250,000    | 250,000    | 0           |    |
| 印刷・製本費          | 3,000,000  | 1,500,000  | 1,500,000   |    |
| 旅費・交通費          | 1,800,000  | 1,800,000  | 0           |    |
| 通信・運搬費          | 1,700,000  | 1,600,000  | 100,000     |    |
| 保険料             | 430,000    | 430,000    | 0           |    |
| 修繕費             | 200,000    | 200,000    | 0           |    |
| 租税公課            | 600,000    | 600,000    | 0           |    |
| 光熱水料費           | 720,000    | 500,000    | 220,000     |    |
| 電話料             | 450,000    | 400,000    | 50,000      |    |
| 会議費             | 300,000    | 300,000    | 0           |    |
| 什器備品費           | 200,000    | 350,000    | △ 150,000   |    |
| 振替手数料           | 320,000    | 300,000    | 20,000      |    |
| 支部運営費           | 3,900,000  | 3,500,000  | 400,000     |    |
| 福利厚生費           | 210,000    | 180,000    | 30,000      |    |
| 事務所管理費          | 803,000    | 750,000    | 53,000      |    |
| その他管理費          | 2,550,000  | 2,300,000  | 250,000     |    |
| 負担金             | 135,000    | 135,000    | 0           |    |
| 賃借料             | 3,600,000  | 0          | 3,600,000   |    |
| 雑費              | 700,000    | 600,000    | 100,000     |    |
| 管理費計            | 34,868,000 | 28,395,000 | 6,473,000   |    |
| 3. 固定資産取得支出     |            |            |             |    |
| 什器備品購入支出        | 0          | 0          | 0           |    |
| 固定資産取得支出計       | 0          | 0          | 0           |    |
| 4. 特定預金支出       |            |            |             |    |
| 長期計画積立金支出       | 3,000,000  | 3,000,000  | 0           |    |
| 退職給与引当金支出       | 0          | 1,000,000  | △1,000,000  |    |
| 特定預金支出計         | 3,000,000  | 4,000,000  | △1,000,000  |    |
| 5. 予備費          |            |            |             |    |
| 予備費             | 1,500,000  | 1,500,000  | 0           |    |
| 当期支出合計(C)       | 73,593,000 | 68,767,000 | 4,826,000   |    |
| 当期収支差額(A)-(C)   | △8,873,000 | △5,697,000 | △3,176,000  |    |
| 次期繰越収支差額(B)-(C) | 7,248,040  | 25,411,516 | △18,163,476 |    |

| 科 目         | 予 算 額      | 前年度予算額     | 増 減       | 備考 |
|-------------|------------|------------|-----------|----|
| Ⅰ収入の部       |            |            |           |    |
| 1. 基本財産運用収入 |            |            |           |    |
| 基本財産利息収入    | 200,000    | 350,000    | △ 150,000 |    |
| 2. 会費・入会金収入 |            |            |           |    |
| 入会金収入       | 4,500,000  | 4,500,000  | 0         |    |
| 通常会費収入      | 46,000,000 | 45,000,000 | 1,000,000 |    |
| 終身会費収入      | 0          | 0          | 0         |    |
| 会費・入会金収入計   | 50,500,000 | 49,500,000 | 1,000,000 |    |
| 3. 事業収入     |            |            |           |    |
| 広告料収入       | 2,500,000  | 1,500,000  | 1,000,000 |    |
| 印税収入        | 20,000     | 20,000     | 0         |    |
| 刊行物売上収入     | 1,000,000  | 1,000,000  | 0         |    |
| その他事業収入     | 4,000,000  | 4,000,000  | 0         |    |
| 山研使用料収入     | 3,000,000  | 2,700,000  | 300,000   |    |
| 事業収入計       | 10,520,000 | 9,220,000  | 1,300,000 |    |
| 4. 補助金等収入   |            |            |           |    |
| 補助金収入       | 0          | 0          | 0         |    |
| 5. 寄付金収入    |            |            |           |    |
| 寄付金収入       | 0          | 0          | 0         |    |
| 6. 雑収入      |            |            |           |    |
| 受取利息        | 3,000,000  | 3,500,000  | △ 500,000 |    |
| 雑収入         | 500,000    | 500,000    | 0         |    |

## 定 款 の 新 旧 対 照 表

| 新                                                                                                                                                                                                      | 旧                                                                                                                                                                                                                                |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第6条 本会の会員は次の通りとする。                                                                                                                                                                                     | 第6条 本会の会員は、次の通りとする。                                                                                                                                                                                                              |
| 1. 通常会員 本会の目的に賛同し、本会の定める入会金20,000円および下記の年会費を納める個人または団体。 12,000円<br>尚満25歳以下の入会者に限り入会金を免除する。<br>但し、婚姻関係にある者が共に通常会員の場合に限り、申し出により、いずれか1名の年会費を減額し、下記の通りとする。 8,000円                                          | 1. 通常会員 本会の目的に賛同し、本会の定める入会金15,000円および下記の年会費を納める個人または団体。<br>東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県に在住する者 10,000円<br>上記以外に在住する者 9,000円<br>但し、婚姻関係にある者が共に通常会員の場合に限り、申し出により、いずれか1名の年会費を減額し、下記の通りとする。<br>東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県に在住する者 7,000円<br>上記以外に在住する者 6,000円 |
| 2. 終身会員 本会に入会後10年以上在籍せる個人会員にして、所定の終身会費を納めた者。<br>但し終身会費は次の通りとする。<br>入会後 10年以上在籍せる者 300,000円<br>20年以上在籍せる者 220,000円<br>30年以上在籍せる者 150,000円<br>40年以上在籍せる者 60,000円<br>付則<br>この定款の一部変更は平成8年4月1日より実施するものとする。 | 2. 終身会員 本会に入会後10年以上在籍せる個人会員にて、所定の終身会費を納めた者。<br>但し終身会費は次の通りとする。<br>入会後 10年以上在籍せる者 250,000円<br>20年以上在籍せる者 180,000円<br>30年以上在籍せる者 120,000円<br>40年以上在籍せる者 50,000円                                                                    |

## 社 団 法 人 日 本 山 岳 会 細 則

|                                                                                                                                |                                                                                                                                                          |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第12条 本会は新たに入会する者に対し、入会に関する所定の手続きの完了と同時に会員章および略章を交付する。但し紛失等の理由により会員に対し再交付する場合は実費を徴収するものとする。                                     | 昭和47年11月11日 制定<br>昭和61年5月16日一部改定<br>平成3年5月18日 改定                                                                                                         |
| 第13条 会員は本会が開催する総会、小集会、年次晩餐会等その他重要な行事にはなるべく会員章または略章を着用して出席するものとする。                                                              | 第1条 この細則は定款第49条に基づき本会運営上に必要な事項を定める。                                                                                                                      |
| 第14条 死亡以外の理由によって会員たる資格を失った場合はただちに会員章、略章を本会に返付するものとする。                                                                          | 第2条 本会業務処理のため、理事会の議を経て、下記の内容を骨子とする委員会をおくことができる。<br>1) 理事会のライン部門としての日常業務を担当する委員会<br>2) 理事会のスタッフ部門としての専門委員会<br>3) 部会的活動をする部門を運営するための委員会                    |
| 第15条 主事、書記等の職員は、理事会が定めた職務規定、経理規定、その他の諸規定および本会運営に関する内規等に基づき担当理事の指示に従い、本会の運営に関する日常の事項および会計事務を処理するものとする。                          | 第3条 委員会の構成については次の通りとする。<br>1. 委員会担当理事は会長が委嘱する。<br>2. 各委員会の委員は担当理事の推薦により会長が委嘱する。<br>3. 委員会は必要に応じ委員長を置くことができる。<br>4. 委員長は委員会の互選により選任し、委員会の座長として会議の取り纏めを行う。 |
| 第16条 会員は会務に必要な場合を除き、会の重要な備品を使用したり、あるいは持ち出ししてはならない。                                                                             | 第4条 委員の任期は2年として再任は妨げない。但し委員長の任期は原則として再任迄とする。                                                                                                             |
| 第17条 会員および会員以外の者が本会施設に來訪する場合は、到着と共に備付けの名簿にその氏名を記入しなければならない。                                                                    | 第5条 委員会における重要な決議事項および予算外の支出を必要とする事項は、理事会の承認を経なければならない。                                                                                                   |
| 第18条 理事会の許可を得ないで本会内で次の行為をしてはならない。<br>1. 掲示、広告、展示等 2. 集会、商行為等                                                                   | 第6条 委員会担当理事は、その担当事項に関する翌年度の予算を毎年1月末迄に理事会に提出しなければならない。                                                                                                    |
| 第19条 本会は特別の事情ある場合、会員から寄付金を募集することができる。                                                                                          | 第7条 定款第14条による理事および監事の選挙は、その候補者を評議員会が推薦するものとする。                                                                                                           |
| 第20条 定款第5条による支部の規定は、支部ごとに定め、理事会の承認を得るものとする。                                                                                    | 第8条 定款第14条による会長および副会長の選挙は、その候補者を評議員会が推薦するものとする。                                                                                                          |
| 第21条 本会の休室日は、年末年始1週間(12月29日～1月5日)、夏期8月15日を中心とする1週間および、日曜・祝祭日ならびに本会の創立記念日(10月14日)とする。<br>但し、創立記念日が日曜日にあたる場合は、その翌日を創立記念日として休室する。 | 第9条 役員および評議員はすべて無報酬とする。但し職務のために要した実費は支給を受けることができる。                                                                                                       |
| 第22条 本会の開室、閉室時間を次の通り定める。<br>毎週、月、火、木、土曜日は午前10時より午後8時迄とし、水、金曜日は午後1時より8時迄とする。                                                    | 第10条 会費の納入は原則として毎年4月に本会から送付される請求書に基づき納付するものとする。                                                                                                          |
| 付 則 この細則の改廃は予め評議員会の意見を聞き、理事会および総会の議決によって定めるものとする。                                                                              | 第11条 支部所属会員が当年度会費をその年度内に納付した場合は、当該会費のうち支部運営費として一人当たり1500円を支部に還付する。<br>但し終身会費を納付した場合は当該納付終身会費の10%とする。                                                     |

## 細 則 改 定 (案)

期は原則として再任までとする。

## 第12条

1. 本会に入会を希望する者は、入会後満2年以上を経た会員2名の紹介を必要とする。
2. 紹介者のうち1名は、原則として本会役員、評議員、支部長、またはこれらの経験者であることを必要とする。
3. 本会は新たに入会する者に対し、入会に関する所定の手続きの完了と同時に、会員章および略章を交付する。但し紛失等の理由により会員に対し再交付する場合は、実費を徴収するものとする。

## (社) 日本山岳会組織の見直しについて (案)

1995. 03. 02

- ①活発な支部活動に対して、重点的に財政支援が行える方式を考える。
- ②支部担当の副会長を指定する一方、各支部においても本部担当者(たとえば事務局長)を定め、定期的に議事録の交換と連絡を行う。
- ③自然保護委員会におけるように、各地域担当委員と支部側委員を定め、定期的に連絡や人的交流を図るのは極めて有効である。今後は委員会や各種グループにおいても、このような体制のとられるのが望ましい。

## (5) 委員会構成の変更

委員会は本会の会務の運営や実践研究活動を円滑に推進するための組織であり、担当理事のもと、有効に運営されなくてはならない。

近年委員会の中には委員の固定化や委員数の必要以上の増大などのため、運営機能が十分に発揮されないケースも見られるようになってきた。この際、細則の第2～4条を別紙のように変更し、適正な規模の数の委員が活発に討議を重ねることにより、有効な実績を上げることが期待する。変更の主要点は下の通りである。

- ①委員会は会務運営的な委員会群と、実践研究的な委員会群に大別し、各々に担当副会長を配する。スタッフ部門としての専門委員会は廃止する。
- ②委員は原則として、入会後満2年以上を経た会員の中から担当理事が推薦し、会長が委嘱する。
- ③委員の定数は20名程度とする。
- ④委員会によっては担当理事が委員長や若干名の常任委員を選出し委員会運営にあたる。
- ⑤委員の任期は2年とし、再任は妨げないが原則として再々任は行わない。なお、委員はできる限り1委員会だけに係わることであり、やむを得ない場合でも二つの委員会までに止める。委員会には各種協力的委員を設けることができる。これら協力的委員に任期はないが、委員会の決定には参画しない。協力的委員として、当委員会に関与し協力する新入会員や協力者などの協力委員、支部在席の支部委員、指導を期待する指導委員、顧問的な存在の特別委員などが考えられる。

## (6) 各種グループ

会員の積極的な活動を促進する上で、委員会活動を支える部会とか、研究会あるいは各種同好会などグループが多数設立されるのは極めて望ましい。

これらのグループはいずれもJACの趣旨に即したものである上、一般会員のサービスでもある活動なので、ルームの利用なども認められる。ただし本会の名で活動が行われる以上、予め責任者を定め、理事会の承認を得ておく必要がある。ただしあまり大規模になるとかえって機能が十分に発揮されなくなるおそれもあるので、スケッチクラブに対しサン燦クラブが誕生したように、第2、第3の同好会が設立されるのも望ましいことである。

部会や研究会は委員会や複数の委員会の実践活動を担当するグループで部会長は委員が担当し、通信費など必要経費の一部は委員会への申出により援助を受けられるものとする。

部会、研究会として、遠征部会、中高年部会、青年部会、海外トレッキング部会、自然学研究会、登山史研究会などが考えられる。

## (7) 委員会組織について

委員会の統廃合や名称の変更など、組織の改革は直ちに行わず、今後2年間の試行期間を通じ、各委員会の自助努力により、推進していくものとする。その際、①活動内容がJACの会務に相応しく前向きであるかどうか、②原則として月1回程度の委員会を開き、委員数や委員の出席率はどうか、③委員会予算は適正に使用されたか、などの検討が行われることを期待したい。

第2条 本会業務処理のため、理事会の議を経て、会務運営的な委員会と、実践研究的な委員会をおくことができる。

第3条 委員会の構成については次の通りとする。

1. 委員会担当理事は会長が委嘱する。
2. 各委員会の委員は原則として、入会後満2年以上を経た会員のうちから、担当理事が推薦し、会長が委嘱する。
3. 委員の定数は20名程度までとする。
4. 委員会運営のため、担当理事は委員長や若干名の常任委員を選出することができる。

第4条 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。ただし委員の任

日本山岳会は我が国で最初に設立された山岳会であり、国を代表する山岳会の一つとして、自由で文化的なクラブライフを享受しながら、今日まで発展を続けてきた。しかし最近会員数が増加してきたため、

- ①会員相互はもとより、本部と各支部や各委員会乃至これら相互の連絡さえも密とはいえない状態になってきている。
- ②会員構成面では、若年層会員が減少しつつあると共に、中高年層初心者会員が一部増えてきている。
- ③世界の高峰に登り尽くされた現在、登攀方法が多様化し、季節を問わないヴァリエーションルートその他、アルパインクライミングやフリークライミング、あるいはアルペンスキーやスノーボードなど様々な自由度をもってきた上、文化面に於いても、登山資料や自然に対し特別な関心を抱く会員が増えてきている。これらの多様な会員の各々に対し、日本山岳会が意義のある存在であるためには、下記のような目標を掲げ、組織の見直しを行うべき時期にきていると考えられる。
  - i) 本部、各支部、各委員会相互の連絡の強化
  - ii) 若年層会員の増加策
  - iii) 会員の自主的活動の場の拡大

## (1) 入会制度

保険金負担額の軽減など図るため、会員数の大きい拡大を目指す考えも提起されたが、今回の見直しでは数の増大よりも、質の充実を優先させたほうがよいと考えられる。無制限に会員を増加したのでは、良き伝統が失われる他、JACの体質まで変えてしまうおそれがあるからである。会員の入会制度は現在2名紹介者制であるが、問題はこの制度が多分に形骸化していて、このままでは良い会員を集め難い点にある。このため2名紹介者制は残すが、次の2つの制限を設けることとする。

- ①紹介者はいずれも入会後2年以上経過した者とし、うち1名は本会役員、評議員、支部長、またはこれらの経験者とする。
- ②第2紹介者も入会希望者に対し、できれば面談または手紙により、JACの説明と会員としての期待の気持ちを伝えるものとする。(この際、説明内容は、「入会の葉」として別途文化するが、その際会員の多様化に対応して、登山歴や行動意欲の他、文化的に高い関心を持つことなども評価される。)

## (2) 受益者負担の原則

会務上行われる合宿や集会では必要経費の一部が支出されるが、懇親会的会合や同好会的活動では原則として受益者負担とし、予算的にサービス活動が滞りを受けないよう配慮する。

- ①講師の謝礼やチャーターバス代なども原則的に受益者負担とする。
- ②ただし、本会はボランティア活動によるのが本来の姿であるから、営利は考えず、会員からの徴収は必要最低限に止める。
- ③JAC主催の山行では、同好会的山行であっても、参加者は保険加入を行う。(参加費に保険費を組み込んでおく)
- ④遠征、冬期合宿、スキーツアー等、多少とも危険が予測される山行では、捜索費の支出される保険への加入を義務づける。

## (3) 若年層対策

- ①満25歳以下の入会者については、入会金を免除する。
- ②大学山岳部出身者だけでなく、ワングル部員や社会人山岳会員等にも積極的に接触して入会の誘致を行う。
- ③関連委員会は、積極的に遠征や登山を實踐し、若年層が入会意欲を感じるのが望ましい。同時に、そのような活動の行い易い委員会組織を構成する必要がある。

## (4) 支部対策

## 東西南北

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。(紙面に限りがありますので、一点につき二〇〇字詰原稿用紙五〜七枚以内でお願いします)



カット 中村あや

### 未踏の北東稜から エベレスト登頂!!

日本大学エベレスト登山隊  
隊長・神崎忠男

日本大学エベレスト登山隊は、日大山岳部創立七十周年記念事業の一つとして計画された。大学山岳部らしい登山がしたいということ、また、一九八六年のヒマルチュリ登山の経験が生かされればと、北東稜ルートからの登頂を選んだ。過去八隊の記録を見てもか

山の魅力と考えて計画を立案した。  
北東稜を登り切るために、一九九四年六月にマッキンリー登山、同年九月にはヒマラヤのチョ・オユール峰(八二〇メートル)を登るトレーニング登山を行った。さらに、安全登山を考え、北東稜での酸素の使用、シェルパの協

力を積極的に取り入れた。そして、日大山岳部(体育会系)、桜門山岳会(OB会)のメンバーのみならず、医学部、理工学部など各学部の山岳部にも呼びかけ、より強力なオール日大隊が編成された。

また、総合大学ということもあって、学内からの学術隊員の参加を計画、高所医学はもとより、高度と放射線の被曝量の関係、気象衛星「ノア」を使っ

た気象観測と天気予報、高地における建築事情、学術隊員を北京大学から迎えて日中合同の地質、氷河の研究、環境学に結ぶ自然保護、ゴミを含んだ汚染対策など六名の学術隊員が参加した。

て、中国、チベット側にBCを建設。未踏のルートということもあり、フィックスロープはじめ登攀用具、NHK、共同通信社の取材機器など約一〇トンの荷物をヤクを使って上げ、前進基地を建設。四月九日、北東稜の末端に取り付き、登攀が開始された。  
四月十四日、C4(七二〇メートル)を建設、さらにC5のキャンプ予定地を確認し、BCへ下り休養をとった。四月二十五日、C5(七八五〇メートル)を建設、いよいよ難所のピナクル帯のルート工作に出る。工作隊からの無線連絡では、岩は順層でそれほど難しいことはなく、雪のつき具合などステップに嫌らしいところがあるが、慎重に行けば問題はないとのこと。天候の変化、酸素の使用など下からの注意に促されながら工作隊は前進。C6のキャンプサイトを北稜との合流点に確認し、次のアタックステージのため、全員がBCへ下山して休養をとった。  
五月二日、古野、井本の二名のアタックメンバーが発表され、五月六日、BCを出発。五月九日、順調にC6を建設。五月十日いよいよ最終キャンプC7(八五六〇メートル)を第一ステップの基部に建設。アタック態勢を整えたが、アメリカ隊から第二ステップの中国がかけた梯子がないとの未確認情報流れ、早速、偵察を出した。梯子

はあるものの壊れていたのでシェルパの手で修復させた。

翌十一日は予想していたとおりの快晴、ネパール時間の朝四時にアタックメンバーがC7の天幕を出発。BC、ABCにも緊張した空気が流れ、アタック隊の行動を追いかけるが、予想以上の早いペースに「焦るな……」と言いたいほどだった。午前六時十五分(日本時間午前十時)「頂上に着きました……」という井本隊員の第一声が入ってきた。もう少し頂上までは時間がかかるものとBCの誰もが判断していたので、一瞬、シーンとした空気が流れたが、私は慌てて「おめでとうございませう」と言い、すぐ全員がワァァと歓声をあげ、登頂成功の実感に感動した。登頂隊は約一時間ほど頂上に滞在して、登路の北東稜を下り、ABCまで帰り着いた。

### 見果てぬ夢・パミールの高地

青木 昇

それは大正八年頃、中学二年の地理の時間でユーラシア大陸の屋根は「パミール高原」という人跡未踏の地であると教わり、それ以来この地名は、少年筆者の脳裏に深い感動と憧憬を与えた。長ずるに従い、いわゆる深山幽谷

を探り山に登る喜びを知り、実践を重ねJACに入会。四季を通じます。登山に打ち込んでいったが、いつの日にかこのパミールの中核に足を踏み入りたいと切望するに至った。

ただ願望するだけでは成しはしない。まず親しい有力な登山人に話しかけてみた。皆本会の古い会員たちだ。佐藤信彦氏(佐藤テルさんの亡夫君)、松方三郎氏、藤島敏男氏、村尾金二氏、近藤恒雄氏など。

手応えある反応は村尾氏からきた。彼は平地では飄々として何か頼りないように見えるが、山に入ると一変する。未知の山やルートで危険や困難に出会うと、別人のごとく頼もしい。危ないグラートやリッジでの身のこなしもなかなかかよい。よし、ペンちゃん(山仲間の愛称)と組もう。彼と二人で、それに現地でシェルパ兼ポーター数名、合計五人くらいの小規模パーティーで余り金はかけられないが、日時を十分にとり、内容的に実りある民俗的人文味も入れた探索的漂泊的な楽しい個人有志の山行としてやろうと決意した。時に昭和十四年(一九三九年)筆者三十四歳の頃であった。

わが国では一般に「パミール高原」の名で通っているが、地図を見れば分かるようにとんでもない間違いで、この地には七〇〇メートル級五峰、六

## 海外の山

### 「サミット」の印象

江本嘉伸

先月のコラムでふれた、世界で初めての、エベレスト女性サミッターたちの集まりについてである。六月二十四日、「エベレスト・ウイメンズ・サミット」が東京で開かれ、一九七五年五月、十一日間の差で南北から女性初登頂を実現した田部井淳子、中国のパンドウ以下各国から十人のサミッターが集まった。

シンポジウムを開き、来日から離日まで彼女たちの周辺について話をした立場から振り返って、聴衆も熱心だったが、登頂者たち自身の熱っぽさが印象的だった。互いに名だけを知っていた「エベレストの同志」と出会って話をするためにやって来た、という感じで、時間はあっという間に過ぎ去ったことだろう。

十人の女性エベレスト登頂者たちはいずれも行動的で魅力的だったが、中でも、リディア・ブレディ(三三三)の明るさ、屈託の無さが目立った。

一九八八年五月、「無許可で」南

東稜から無酸素登頂してしまった顛末については、さる三月号のこの欄で紹介したが、会ってみて自分を飾ることも、偽ることもできないタイプの人間、との印象を受けた。

「ルール違反をしたことには、ネパール政府にお詫びしたい」とブレディは強調しつつ、イギリス女性、アリソン・ハーグリーブスが、さる五月北稜から「無酸素」登頂し、それが「女性初の無酸素」と報道されたことから、ニュージーランド国内で再び、質問を受けるハメになった、と言って笑う。彼女は、許可を得ていない通常ルートから登ってしまったために、登頂については、慎重しやかにしていたようだが、質問には何でも答えた。

サウス・コルでスペイン隊の四人とシェルパのアン・リタと出会った時、五度目の無酸素登頂を前にしたアン・リタの余裕が際立っていた、と語る。

「隊員たちが酸素マスクをつけるのを、彼は、ポケットに手をつ突っ込んで悠然と見守っていた。私は、はじめの五〇〇メートルは大丈夫だったけど、その後、ばててしまってた。ただし、南稜に立った時、登頂は確信したという。腕時計がいつの間

になくなっていて、時間の概念はあまりなかった。

「凍傷を恐れて、普段、時計は腕にはしないで、胸ポケットにしまっておくんですが、何かの拍子にそこから落ちてしまったらしい」

八七四〇メートルの所で登頂して下りてくるスペイン隊の一行と出会った。登頂しても、難所の下山のことを考えて喜びの感情は湧かなかった。「南峰まで下りて、はじめで、やった!と思った」

闇の中をサウスコルのテントまでたどり着き、その夜は「素晴らしくよく眠った」そうである。酸素なしに、平和に眠れるのだから、よほど強いのだろう。

一九六〇年のチョモランマ隊の時「女は六四〇〇メートルまで」と言われ、くやしさに歯がみしたというパンドウ、女性がリーダーシップをとることに闘志を燃やすインドのバチェンドリ・パル、儒教思想の影響で女性のヒマラヤへの理解はまだ低い、と言い切る韓国のジ・ヒョンオク。

エベレストでアジアの女性たちの活躍はめざましいが、ブレディのような女性がその中にまじるのが、またよかった。

## 俳句

## ヒマラヤ紀行・二十句

北海道支部 末岡 陸

霧のよる木立はシヴァの住み家なる  
孔雀現れぬヒンドウ寺院の枯葎  
ぼてぼてと毛皮着ぶくれ西藏境  
雪しまきタルチヨ一縷炎えており  
ラリーグラスきらきら氷の玉連らね  
薪の背顔見せざるも少女らし  
霧籠めの火葬場ヤクの鈴が行く  
淡雪積もる獣骨散らばる峠道  
大夕焼チャパティを焼く手暗がり  
ヤクつぎつぎ夕焼を背に降り来る  
迷い込んだ悪魔鎮まる氷塔群  
夜の氷河怖しなつかし雪男  
シエルパソング遺瀨なき程焚火燃ゆ  
カリガンダキつらぬく鷹に朝日散る  
チヨモランマ凍る中国の空も凍る  
鬨聲まんだらマナスル背負う寒の寺  
壁面埋めるエロス群像冴え返る  
劫火の焰冷まじ河岸に人を焼く  
死屍の岸永遠にとまれる寒鴉  
雪豹などシエルパと語る国のこと

(葦牙無鑑査同人)

〇〇メートル級十峰前後の峻嶺がひしめき合い、世界最大の氷河を含む幾多の氷河峡谷、その間に点在する高地と湖、そしていくつもの隔絶された現地民だけの小集落。北は天山山脈、東南にかけて崑崙、カラコルム、ヒマラヤ山脈、南西にかけてヒンズークシュ山脈に囲まれた、文字通り大陸の屋根、分水嶺といえる。筆者は「パミール高地」の呼称がふさわしいと思うが、この方面に詳しい田村俊介氏は著書の中で「パミール」を提言されている。

地名といえば、ソ連最高峰とはいえず昔からの由来あるタジック地方の原名を、コミユニズム峰、レーニン峰などとの改名は遺憾千万である。

ところで準備開始であるが、まずソ連領内への入国許可獲得問題に手を付けて間もなく、私が仕事の関係で昭和十六年東京を離れ地方在住となり、次いで太平洋戦争勃発。また村尾氏は少しでもヒマラヤに近付きたい一念から軍関係の南方任務に自ら進んで転出、などのことがあり、肝心のパミール山地入国問題は棚上げの態となった。

昭和三十三年、十七年ぶりに私は東京本社に復帰、JACにも顔を出せるようになった。麻布台のソ連大使館にも村尾氏共々足を運び、再びパミール山地入国問題に振出しから手を付けたが見込みは全く立たない。その頃、田村

俊介氏が商社員としてモスクワに駐在しているのを知り、同氏に手紙を出してソ連中央部の様子を調べてもらった。しかしソ連の岳連も行政府も、全て私たちの求める自由登山入国はこの地域には一切許されないこと。唯一の道はその頃始まった「国際パミールキャンプ」に参加すること。指定空路、指定箇所集合、指定期間、指定ルートによるレーニン峰、コミユニズム峰登頂のみより他に方法なし、との結論を得るに至った。その節、田村氏には大変お手数をかけ貴重なアドバイスをいただいた。改めてここにお礼を申し上げる。

この国際キャンプにはご承知のとおり田村氏、次いで原氏、神崎氏らが参加された。このような山行は私と村尾氏で考えているものとは本質的に異なるもので、残念ながらわれわれは敬遠した。終戦後大分たって元気に帰国した村尾氏はその後病魔に冒され、昭和五十年ついにこの世を去り、私は本年齢九十を数えるに至り、昭和十四年以来私の念頭から消えたことのないあのパミール山地山行は、かくしてついに果てぬ夢と化するに終わった。

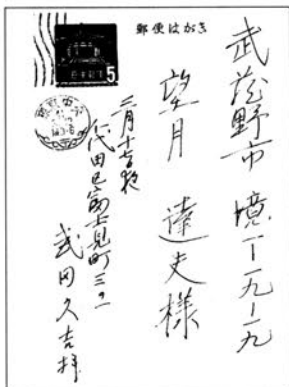
世界の岳人が、この大陸の素晴らしき屋根を、あの高み吹く風のごとく自由に登降し、集落を縫う魅力あふれる漂泊の旅として、味わい得る日の近からんことを熱く祈ってペンを置く。

## 武田久吉氏の書簡から

望月達夫

武田さんは七人の本会発起人の中で最も長寿を保たれたばかりでなく、高山植物のほかにも山村民俗の分野などにまで研究を広げられた。従って交遊の範囲は広かったに違いなく、同氏の書簡を所持しておられる方は少なくないはずである。例えば「山村民俗の会」の機関誌「あしなな」一三八号(昭和四十八年八月刊)は武田久吉先生追悼号の形を取っているが(武田さんは同会の顧問であった)その巻頭に武田さんから岩科小一郎氏宛の書簡が載せられている。序でながらこの本は珍しい写真も多く、武田さんの筆蹟もよく分かって、追悼文集として佳作であると思う。

私の手許に残っているのは葉書三枚にすぎないが、いずれも「山岳」編集者としてこちらから差し上げた書簡に



武田久吉の筆蹟

# 山と医療

## 山での頭痛は頭痛のタネ

田中 壮佑

富士山や立山など、低地から急に高い山に登ったとき、ズキンズキンする頭痛に悩んだ人は少なくないでしょう。

ヒマラヤでは初めて高所に登ったときだけでなく、ルート工作から前進キャンプに戻ったときに頭痛が生じることもあります。希薄な空気、気圧の低下、過激な運動、過換気などが原因で、少ない酸素を補うために血流が増加し、血管が拡張するためです。この急性高山病には個人差がありますが、多くの場合、頭痛は一晩で消失し、2～3日続く場合でも300～500m下

れば嘘のように治ってしまいます。

一方、注意しなければならない高所脳浮腫では、ひどい頭痛というよりむしろ頭が重いことが多く、食欲不振、無気力、注意緩慢、ふらつき歩行、嘔気、嘔吐などを伴います。鎮痛剤は効かず、無駄に高所に滞在することは危険で、急ぎ下山が必要です。

しかし、急性高山病と高所脳浮腫の頭痛を初期の段階で区別することは困難です。頭痛の程度は病気の重症度を表しておらず、頭痛以外の症状や経過、とりわけ登山中の行動やテント内生活の様子が決め手になるでしょう。最近話題のパルス・オキシメーターも必ずしも参考になりません。

高所で頭痛に悩んだら、高山病の予防や治療のためにも、高所に順応するためにも、楽しい登山をするためにも、ひとまず下山することです。

対する返書である。  
○昭和四十年六月二十四日 千代田区  
富士見町三の一から武蔵野市境一ノ  
二八〇へ 葉書  
拝復 高野君追悼文の件どちらを御採用になっても異議ございません、住広造氏逝去の由、高野君とは昵懇の様でしたが高野君他界の今日では誰も同氏を知る人はありますまい、小生は

一度会っただけですが寔に親切なよい人でした、おいそぎでなかったら何か書いて見ませう、  
「アルプ」でしたか梅峠の記事を拝見しました、あそこは地図上で見て一遊をと思つて居た所ですが、梅はあるのでせうか、御教示をお願いします、  
「山岳」六〇年追悼欄一八九頁の一文はこれによつて武田氏が書かれたもの。

「アルプ」八三号所載の拙文で「梅峠を東へかわすと深い梅の林となり」の一文を読まれた武田さんからの質問だが、どうも私の見誤りらしく深い梅の林などではなく、何か他の木らしかつたので、当時そうお返事したように思う。)  
○昭和四十一年三月十七日 千代田区  
富士見町三の一から武蔵野市境一ノ  
十九十九へ 葉書

拝復 山川黙氏の追悼文は去る二月十五日告別式直後？に吉沢氏(注一)から頼まれて同月二十四日JACに発送し已に吉沢氏の手にあります、甚だ短いのですが、あれで間に合うようなら吉沢氏から転送して貰つて御一覽下さい。若し会報に編集済なら、それが出てからそのまま、或は多少補筆して「山岳」用に供しても……と考えて居ます。新規に「山岳」の為に執筆の時間は到底見出すこと困難です。次に高野君の追悼文抜刷落手しましたが、あれに載つた中村君(注二)清太郎の記事に誤謬あることを会報に認めた点が増えられなかったことを遺憾至極に思っています。  
○昭和四十三年二月四日 千代田区富士見二丁目十五番十三号から葉書  
拝復 小生実は清水の村へ入ったことがありませんので確実の御答を申上かねますが、上越国境の山にはよく何

々の頭というのが沢山あります、そのどれだったかを土合の中島キヨシがカシラと読んで居ましたが、これは彼が山名に熟して居ない証據だと思います、「頭」をカシラと読むのは本曾駒のシヨウガシラぐらいで、殊に上越では何々のアタマが正しいと思います、米子沢をコメゴ沢と読むのが本当だとすれば、コメゴのアタマでしょう、それに山という文字をつけるのはどうでしょう、か疑問に思います。そして又コメゴ沢のアタマという用い方はしないでコメゴノアタマと言うに相違ないと思います、昔の測量部以来地理院も地名には冷淡ですから、何も地図に誌してあるどうり読むにも当たらないことと思います。撫生沢を武能沢などと滑稽ながあります。  
(米子頭山の正しい読み方を質問した返信)  
\*  
武田さんへは「山岳」編集に屢々電話で質問させていただいたが、一々明確な回答を得た記憶が残っている。記憶力のすぐれていたことは抜群で、これは亡くなられるまでそうであったようだ。「山岳」の追悼文は六十七年の同欄冒頭に収載され、藤島敏男、戸沢英一、春田俊郎の三氏が執筆、略年譜、著作目録が添えられて約十ページが当てられている。

# 会務報告

## 五月定例理事会

日時 五月十一日(木) 十八時四十分～  
十九時五十分

場所 日本山岳会会議室

【出席者】中村副会長、小倉、大倉、大森、村井、山口、南川、松浦、伊藤、南井、溝口、中川、大谷各理事、中島、川崎各監事、西村、宮下各常任評議員

【委任】藤平会長、片岡、水野、堀井各理事、斎藤、湯浅、神崎各常任評議員(渡邊、山本各理事、重廣常任評議員はマカール登山隊参加中)

議事に先立ち、藤平会長より本日の理事会と、チベットでのアクシデントについてのメッセージが寄せられ、席上で披露された。

【審議事項】  
(一)支部長交替の件 小倉  
宮城支部⇨西郡光昭⇨柴崎徹(会員番号七〇一八) 静岡支部⇨安間荘⇨大石惇(五八三四) 宮崎支部⇨魚本定良⇨大谷優(五一二二) 以上支部総会承認  
山形支部⇨大橋克也⇨梅津博(九一六六)  
・山形支部については、支部総会が本

日以降となるので、五月二十日支部長会議で確認することとして、継続事項とする。 承認

(二)マカール登山隊一九九五の件 大倉  
近日中に中国に対して、約百万円を本会より仮払いする。 承認

## 【報告事項】

(一)マカール登山隊一九九五の件 村井  
ルートの困難と暑さにより体力の消耗は多大であったが、五月二十日頃を目途に登頂をめざす。隊員は全員元気でC3には山本登山隊長以下六名が本日C4建設に向けて活動中である。BCへの激励電話などは各位で。

(二)海外登山基金委員会より 村井  
本会より登山基金の助成を受けた日本大学エベレスト登山隊一九九五が本

十一月一日、現地時間午前六時四十五分北東稜より、C7から隊員二名シエルパ二名、同時にC6から出発したシエルパ二名の計六名が登頂に成功した。本会より小倉常務理事が日大登山隊事務局を訪問してお祝いを述べた。

(三)九十周年合同募金の現況 小倉  
・企業募金 七十一社  
・会員募金 延べ一千七十八万円  
・延べ一千四百六十八万二千六百三円

(総会通知書同封募金再要請による応募により延べ人数とした)  
・山形支部については、支部総会が本

(四)九十周年記念式典の件 中川

各ブロックのトップをきって六月十七日～十八日九州ブロックが大分市と久重山系で開催する。ブロックごとの行事は「山」に掲載されるが、各位においても参加されるようお願いしたい。本部においても五月十二日に九十周年合同委員会を開く。

(五)鳥海山イヌワシ調査班の成果 大森  
自然保護委員会では学術的な見地から、山形支部・佐藤淳志会員を中心としてイヌワシ観測を約二十カ月にわたって続けてきたが、この四月南山麓で巣を発見し、幼鳥が育っていることを確認した。地元の八幡町でも六月の巣立ちまでは現地の調査の中止を町長が確約した。(詳細は「木の目・草の芽」第十一号参照)

(六)山岳研究所より 溝口  
新管理人に内田二葉さんを迎えて開所、連休も過ぎて順調に動きだし、地元でも極めて好意的に運営されている。資料室には一般の人たちも立ち寄り、四か国語の説明書も置かれ、信越TVからの取材の申し入れもあり、八月には自然保護委員会からのインタープリターの実施も予定されている。多数会員の来所をお待ちする。

五月臨時理事会  
日時 五月二十五日(木) 十八時三十分～二十時

場所 日本山岳会会議室  
【出席者】村木会長、中村、斎藤、宮下各副会長、大屋、吉永、中川、大谷、伊藤、水野、南井、溝口、田辺、宇田川、熊崎、大蔵各理事、川崎、石橋各監事、小倉、大倉、村井、大森、神崎各常任評議員  
【委任】松浦、堀井各理事(渡邊、山本各理事、重廣常任評議員はマカール登山隊参加中)  
◆議事  
【審議事項】  
(一)山形支部長新任の件 小倉  
梅津博(会員番号九一六六)を五月十四日支部総会にて選任。承認  
(二)田部井淳子エベレスト登頂時の装具などの借用申し込みの件 小倉  
(三)西遊旅行社主催(六月二十九日～七月十六日)ギャラリー西遊記での田部井淳子エベレスト登頂二十周年記念展に出品のため、装具一式の借用の要請があった。承認  
(四)写真展の後援名義使用の件 小倉  
「岩橋崇至の世界」―空の深淵(七月十一日～八月六日)代官山ヒルサイドテラスF棟)主催のアサクラ・ギャラリーより要請があった。承認  
(五)TV番組の取材許可願いの件 小倉  
(六)テレビマンユニオンより番組「世界ウルルン滞在記」一九九五年六月十八日(日)二十二時～二十二時五十四分放

送予定に、明治大学山岳部のゴジュンバ・カンII峰初登頂(一九六五年四月二十三日)時の植村直己隊員の写真などの再撮影の許可要請があった。承認

(五)九十周年記念グッズ製作 中川

記念グッズの一つとして蛍光色のスタッフバッグを製作し、JAC九十周年の文字を刷り込む。織りネーム(ザックやバッグなどに縫い付けるもの)『日本山岳会』五枚綴りも同時に製作する。

内役員の担当の件 村木会長 承認

### 【報告事項】

(一)予算執行の件 吉永

先の総会において、承認された予算の枠内での運用を図りたい。各委員会担当理事においても定められた予算内での委員会活動をお願いする。

(二)総会の件 中川

五月二十日、水道橋グリーンホテルにおいて支部長会議・出席者三十六名・総会・当日出席者・百五十一名、懇親会参加者・百二十五名で滞りなく終了した。

(三)マカルー峰登山隊一九九五の件 村井

五月二十一日十二時四十五分(日本時間十三時四十五分)田辺、山本篤、松原、荒井の四隊員がマカルー峰東稜に初登頂。二十二日十一時十五分(日

本時間十二時十五分)山本宗、谷川、竹内、小野の四隊員も登頂に成功した。二十七日にBCの撤収、インマルサットの使用期限も二十七日までである。帰国予定はカトマンズ経由隊員は六月十一日、北京経由隊員は二日ほど遅れる。

●六月三十日(金)マカルー峰登山隊登頂祝賀会を池袋メトロポリタン・ホテルで開催する。

四)日本大学エベレスト登山隊 小倉

五月十一日、好天とシェルパがよくて、事故・怪我もなく、隊員二名、シェルパ四名が北東稜より初登頂に成功した。JACからの海外登山基金の助成もあり、厚くお礼申し上げる。

(五)九十周年記念事業関連の件 ●合同募金現況報告

(五月二十五日現在) 石橋

・会員募金 千七百七十五名  
・企業募金 一千六百四十六万八千六百三円  
・申し込み七十九社(団体) 二千六十八万円

●記念フォーラム委員会 大森

伊丹紹泰、坂本正智、藤井正彦の三会員に委員を委嘱、加入した。

●記念事業委員会 大森

平成六年十月十三日の理事会承認どおりであるが、新役員の加入もあり一部入れ替わりなどが予定されるが、こ

れについては六月理事会で審議を願う。●企業募金の要請に会社訪問などをされる際の土産として空撮写真十二枚セットを提供するので、使用していただきたい。

内役員・委員名の届け出の件 中川

名簿作成のため、各理事は担当する委員会委員の名簿を速やかに提出願いたい。

●村木潤次郎会長より

「世代の交代がいわれているが、今回のマカルー登山は若い世代が実施に当たり、JACの今後につながるものだと思う。(中略)以前に二十一世紀のビジョンをとの話をなされ、ビジョンが縛りにならないかと四か条の返答をしたが、今度の見直しにも同様の対処を、自然保護を含めて各理事で思うようにすすめてほしい。

今回の理事会の構成は若い方がかなりいるので、その発言も会長としての私に対するものでなく、若年者代表として話題を出してほしい。新たに宮下、斎藤の二副会長が参画されたので、その力を借りて会務をすすめてゆきたい(以下略)」

\*本日は第一回で小倉前常務理事が議事進行したが、六月よりは大屋常務理事が当たる

### 【委員会報告】

●青年部 五月十日、中央大学学友会

体育連盟山岳部、タンラ・ポ(タンラ・ツィシユン)登頂報告会。青年部、シート・チュチュラ隊帰国挨拶。

### ■会員異動

#### 物故

寺村栄一(二〇四一) 6・11・26

中島茂(一一二一九) 6・11・19

村井喜一(四九三九) 7・2・8

宿屋昭二(一〇五三三) 7・2・13

鈴木一弘(七〇一五) 7・2・2

田村真知子(一一六六五) 7・5・7

赤沼節(四二〇八) 7・5・27

宮原利重(八六一九) 7・1・15

橋本誠二(二〇一八) 7・6・5

退会(五月三十一日付け)

高野力(一〇四五三)

小森光子(八四七三)

山口陽一郎(一〇四六六)

大島三枝(一〇九八七)

池田春次(二〇六五六)

池崎藤雄(二〇七七九)

慶佐次盛一(九五七七)

#### 改姓

菅沼景子(一〇四一六) ↓上田景子

奥野ひろみ(一一五四二) ↓佐藤ひろみ

#### 終身会員

岡本如矢(四七二六)

宮下秀樹(五五五〇)

菊地文雄(五七六七)

金子誠吾(四一九九)

# 創立90周年記念事業募金応募状況

(1995年6月2日現在)

累計/1,298名/3,551.5口/17,757,603円

## ● 20口 (100,000円)

村木潤次郎 今西錦司先生記念  
碑建立委員会

## ● 10口 (50,000円)

鯉坂青青 久木義雄 田辺寿  
坂倉登喜子 (計20口) 若林啓  
之助 (計20口)

## ● 6口 (30,000円)

中澤眞二 (計12口) 竹田寛次  
秋山光男 阿部和行 (計10口)  
篠田勝久 伊藤寛志 岩井国臣  
(計12口) 辰沼さんを語る会  
泉尾忠志 中島道郎 (計8口)

## ● 5. 4口 (27,000円)

瀧川悠紀夫

## ● 4口 (20,000円)

高遠宏 尾崎徳郎 (計7口)  
高橋早苗 (計8口) 大石惇  
松井辰彌 伊佐九三四郎 和崎  
俊雄 百瀬孝 上條輝夫 三谷  
統一郎 鈴木一弘 伊達寛郎  
(計8口) 宮竹重里 津田文  
夫 松浦輝夫 田村俊介 橋本  
誠二 竹内哲夫 古市進 (計10  
口) 武田満子 吉永英明 (計  
10口) 羽田英彦 (計8口)

## ● 3口 (15,000円)

本田昌司 杉山イタル

## ● 2. 2口 (11,000円)

佐藤彌右衛門 (計4.2口)

## ● 2口 (10,000円)

垣内康時 市嶋宏一 高田眞哉  
(計6口) 渡辺温子 岡沢修  
一 田中久子 大山昇 佐藤弘  
倉持内武 島津慶子 (計4口)  
塚原道夫 (計4口) 大貫金吾  
小牟禮明 武井清 (計4口)  
樋山規夫 安彦六郎 (計8口)  
吉沢一郎 佐野貴之 作見徹  
栗野修一 (計4口) 東海林敬  
前田直己 後藤泰治 (計4口)  
渡辺敏夫 井口拓夫 渡辺富衛  
影山英雄 転馬博之 (計4口)  
高田允克 (計4口) 平田大昭  
長谷川雄助 (計4口) 森宏子  
國武高 青木敏雄 後藤三男(計4口) 小宮京子 岩崎三郎  
平山寛 増田欣子 神保信雄  
(計4口) 神戸信和 佐々木康  
之 (計4口) 田村佐喜子 五  
十嵐篤雄 (計4口) 早川英夫  
森山久夫 安藤幹 山来田耕介  
兒玉健二 中美知代 本多夏生  
(計4口) 浦一美 余部守男  
田川芳子 (計4口) 稲田静代  
相澤増平 太田義一 平位剛  
(計4口) 中村勝久 松上美代  
子 田中貢 島田稔 伊藤正俊  
佐藤芳久 (計4口) 辻章行  
水沢富一郎 宮森実 深川安明  
原謙一 干谷壮之助 (計4口)  
窪寺健之 津田清昭 森和寿  
武田峯生 松本宏 (計4口)  
兼宗房子 木村勝久 (計4口)  
市川次良 (計4口) 遠藤靖彦  
(計4口) 平野雅俊 滝和美  
石森長博 太田浩史 手塚宗求  
林栄二 平塚直秀 熊谷友昭  
絹川祥夫 青井忠四郎 (計4口)  
荒井紀子 中川智康 石澤六郎  
(計4口) 村上昭三 山本聖二  
原田武司 山本悦子 池田真由  
美 高橋一雄 (計4口) 長谷  
川良典 小山幹 中島富雄 荻  
野昌宏 (計4口) 先水美智子  
倉地省吾 坂口三郎 (計4口)  
新井信太郎 (計4口) 福島郁  
江 福島政和 北野喜行 西川  
雄策 宇津宮隆史 渡辺多佳子  
鈴木松三 (計4口) 若月二郎  
野口喬 酒匂輝昌 池田智恵  
越田和男 松本治 浜口欣一  
島尾久子 (計4口) 中山博允  
(計4口) 佐竹春江 河野之保  
戸来彌 (計4口) 斉藤恭右  
鈴木進 中川久 船橋山百合の  
会 矢野弓之介 所彰 田高卓  
士 日向祥剛 嶋崎兵市 (計4  
口) 溝部忠増 黒沢孝 東真  
澄 松長晴利 山下正代 山本  
照彦 高田和彦 小川泰平 朝  
倉英子 山野井武夫 小林英雄(計4口) 河野直子 西英二  
岡村治信 (計4口) 芳賀孝郎  
滝敏之 保坂一 丸山彰 小野  
光比古 牧野衛 (計4口) 佐  
藤春郎 堀田弥一 山口善弘  
岩切岑泰 保科海守 若松庄三  
鈴木裕代 喜熨斗政夫 山本晃  
弘 (計4口) 川島新太郎 新  
堀春喜 蓮實淳夫 中山琥一  
大谷亮 (計6口) 大里祐一  
(計4口) 佐藤昭次郎 西郡光  
昭 森庄一 永島賢司 高橋昭  
次 山上皓一郎 稲垣信生 高  
部正夫 川上進 斉藤幸彦 酒  
井忠正 黒田守彦 井上克孝  
川俣俊一 (計4口) 福原健司  
(計4口) 中森寛 尾身茂 大  
友繁 大野洋次郎 野村哲也  
(計4口) 斉藤直信 (計5口)  
岩堀瑞子 川上隆 徳永篤司  
(計4口) 三輪文一 藤井英夫  
村上勝太郎 (計4口) 高木康  
雄 宮本忠直 加藤求二 土井  
高夫 林桂子 柴田初子 二階  
堂匡一朗 戸塚守夫 広谷精啓  
太田徳風 木内静子 岩田安生  
野島照雄 宮下広次 岸田幸雄  
中野武司 沼田敏明 渡邊豊  
沼賢亮 川島榮三郎 金井健二  
中嶋正夫 吉田功 國學院大学  
山岳部 國學院大学山岳部OB  
会 (計8口) 小清水敏昌 上  
田景子 金子誠吾 佐々木孝雄  
長谷川章 藤井与嗣明 熊谷と  
も子・洋 豊中貞子 豊島義明  
藤原登

## ● 1. 8口 (9,000円)

山川博 斉藤省吾 森沢堅次  
(計2.8口) 吉田力

## ● 1口 (5,000円)

荒井謙之輔 滝口脩 滝口操  
秋野子弦 荒木昭 子吉格郎  
石下恭子 坂井広志 早津忠保  
太田章雄 匿名氏 足立勤 尾  
藤昭二 古田寛昭 植村澄江  
原田衛 鈴木宏 (計3口) 高

本孝(計3口) 吉原博 木村  
カズミ 尾崎千代一 三井高治  
亜歴文代 木村京子 坂尾藤江  
開発秀三(計3口) 森迪彦  
池田悟 長田健三 荒木壮一  
伊奈宏司 角谷允孝 三枝明德  
仲村恒明(計2口) 田中義一  
角谷由利子 岡田米三 水谷弘  
治 田中義晴 田中春子 川崎  
泰男 一山了 川村旭 高村篤  
生 本間美智子 守屋龍男 飯  
村富彦 小宮山稔 渡辺一 朝  
妻三松 佐藤節子 三嶋隆英  
(計2口) 佐藤正八 小野庸  
(計3口) 佐久間敏宣 若林和  
司 若林エミ 田中松三郎(計  
3口) 浜田好子 白井愼 岩  
佐邦彦(計3口) 千葉庸松  
城島正幸(計3口) 松山齊  
内田玲子(計2口) 吉岡淳一

渡邊嘉孝 清水朝一 足利武三  
坪井圭之助(計3口) 安土武  
夫 矢野晴彦 岡田謙吉 藤田  
愼一 宇津力雄(計2口) 山  
口暁 原田敬子 柏倉信義(計  
3口) 岡村美邦 羽賀育子  
平井隆之 深田泰三 山本泰文  
京都大学医学部山岳会 桑原富  
彦(計3口) 石井文雄 西川  
信義 森亮二 平木清一郎 河  
野滋彦 有吉毅 安達久美子  
山里寿男 延島冬生 佐野加代  
子 風間満治 中野和郎 河瀬  
真知 田代妙子 山田信明 松  
下多佳子 松下二郎 内藤俊夫  
(計3口) 渡辺富士子 湯川龍  
二 杉並区役所山岳部 平田信  
康 宝井俊夫 野元禮次 門松  
萌美 大山健助 高橋てる子  
竹内研一 門脇愛子 倉持ノリ

子 馬場猛 澤井政信 韭沢庸  
昭 佐藤泰彦 桑原健児 早川  
滉 八幡浩 辻和雄 花井馨  
牧野忠昌

●0.8口(4,000円)

草木陽一

●0.6口(3,000円)

上野明人 三角朗 奥野正亥  
(計2.6口) 中島眞一 直井昇  
故寺村栄一未亡人 渡辺泰夫  
山田益弘 近内昇 宮原岳子  
(計2.6口) 廣瀬誠 新井文男  
畑中耕一 武藤信子 上村幹雄

●0.4口(2,000円)

長宗清司 猪股鎮夫 樋口光久

●0.2口(1,000円)

村上義千代 渋谷好司 岩崎充  
弘

●4,603円

寺本滉

## INFORMATION



### ◆九十周年記念式典・中部ブロック

式典と登山のご案内 山梨支部

式典他 八月二十六日(土)

会場 古名屋ホテル(甲府市中央一

一七一一二 TEL〇五五二一三五

一〇二二二)

受付 十二時三十分開始

開会式 十四時三十分～十五時

フォーラム 十五時～十八時

南アルプスの山岳環境の保全と登山

の望ましい将来像について

ゲストスピーカー

渡辺定元氏(前東大教授)

高橋 裕氏(芝浦工大教授)

望月義清氏(芦安村社長)

懇親会 十八時三十分～二十一時

記念山行

1八ヶ岳・編笠山日帰り(昼食付)

八月二十七日 ホテル発七時

2仙丈岳一泊二日(定員三十名)

八月二十七日～二十八日 小屋泊

食事付

八月二十七日 ホテル発七時  
参加費

宿泊(懇親会等込) 一万九千円

式典・懇親会のみ 八千円

編笠山日帰 三千円

仙丈岳一泊二日 一万二千元

\*ホテル満員の際は別途案内します。

参加希望事項を記載した申込書(含返)

が到着次第要綱等を送付します。

\*記念山行のみの参加はご遠慮下さい。

締切 八月五日

申込 千四〇〇 甲府市青沼三一二

一四 (株)エンドー内 日本山岳会山梨

支部 FAX〇五五二一四一五二六五

\*電話での問い合わせはご遠慮下さい。

◆九十周年記念式典・東北ブロック

主管・岩手支部

一、式典・記念講演・祝宴

日時 九月九日(土)

会場 ホテル東日本(盛岡市大通三

三一一八 TEL〇一九六一二五

二二三一 駅から徒歩八分)

受付 十三時～十三時三十分 会場で

式典・記念講演 十三時三十分～十五

時三十分 講師・重廣恒夫氏

祝宴 十五時三十分～十八時三十分

会費 九千円(参加申込時にご納入く

ださい)

\*当日は会場の都合により記念講演の

みの参加はご遠慮ください。

二、記念山行

日時 九月十日(日)

場所 姫神山一八時ホテル発一頂上で

昼食一盛岡着十六時

参加費 三千元(貸し切りバス代、参加申込時にご納入ください)

三、参加申込 七月三十一日まで所定の申込用紙により、岩手支部に

連絡 二〇〇一〇一盛岡市西青山三丁目三一一三中谷允宛・郵便で

◆日本山岳会本部の九十周年記念式典のお知らせ 総務委員会

日時 十月十四日(本会創立記念日)

会場 新高輪プリンスホテル

\*なお恒例の年次晩餐会はいりませんので、ご留意ください。

◆ビールパーティーのお誘い 集委員会

恒例のビールパーティーをルームで開催します。夏休みの山行の話題を持ち寄って楽しくやりましょう。二火会の方々も協力してください。

日時 九月二日(日) 十七時

会場 JACルーム

会費 二千元

◆「きのこ山行」のご案内 集委員会

会津の山里の村(高郷村)をベースに、色づき始めた山を登り、温泉で地酒に山の幸、手打ちそばを楽しむ山行を計画。希望者には村の中や山の周辺を自転車で行く企画もあります。

日時 九月二十九日夜出発

場所 博士山と近隣の山

\*詳細は次号でお知らせします。またルームにも掲載する予定です。

◆紅葉の立山・黒部撮影会 担当・柳下、藤田

富山支部・フィルムビデオ委員会共催

アルパインフォトビデオクラブ後援

紅葉に彩られた歴史とロマンの大自然、立山連峰をあなたの感性で受けとめてください。初めての方も気楽にご参加ください。

日時 九月三十日(日)十月一日(日)

場所 北アルプス・立山室堂周辺

集合 立山室堂平 雷鳥荘(Tel〇七六四一六五五七七七) 十七時

撮影会 十月一日 ★雄山山頂コース

★みくりが池・地獄谷周辺コース

ス 両コースとも案内人つき

費用 一万二千元(宿泊費、保険料、懇親会費)

申込 八月三十一日までに費用を郵便振替(口座番号〇〇七三〇一二

一〇〇七 口座名義(財)日本山岳会富山支部)でお振り込みください。先着順・定員五十名

問合せ 葉書でフィルムビデオ委員会

\*参加申込者には詳しい案内書を送付します。

◆探索山行「奥美濃の植物」 科学研究委員会・岐阜支部

なかなか行く機会のない奥美濃の静かな自然を訪ねて、大日ヶ岳へ探索山行を行います。

日時 九月三十日(日)十月一日(日)

場所 ホテル ホワイトキャッスル

(岐阜県郡上郡高鷲村)

講師 大内幸雄(岐阜大学名誉教授)

日程 三十日 十時三十分、岐阜羽島駅改札口集合 バスでホテル到着後、講演および懇親会

一日 早朝出発し大日ヶ岳へ。登りは蛭ヶ野から約三時間、下りはスキー場へ約二時間。下山後バスで移動し、岐阜羽島駅で解散。

会費 約一万七千元(宿泊費、一泊二食、懇親会費、バス代、保険料)

両日の昼食代は別。

申込 葉書に会員番号、氏名(ふりがなも)、年齢、住所、電話番号を明記の上、九月九日までに事務局まで。詳細案内書を送付します。定員三十名。

問合せ 森まで Tel・Fax 〇三三三四八八四六七〇

◆松田敏男・山の花と山の版画展

日時 八月一日(火)〜六日(日) 十二時〜二十時

会場 平安画廊

京都市中京区寺町通三条上る 〇七五二二二一〇六九四

なかなかに行く機会のない奥美濃の静かな自然を訪ねて、大日ヶ岳へ探索山行を行います。

日時 九月三十日(日)十月一日(日)

場所 ホテル ホワイトキャッスル

(岐阜県郡上郡高鷲村)

講師 大内幸雄(岐阜大学名誉教授)

日程 三十日 十時三十分、岐阜羽島駅改札口集合 バスでホテル到着後、講演および懇親会

一日 早朝出発し大日ヶ岳へ。登りは蛭ヶ野から約三時間、下りはスキー場へ約二時間。下山後バスで移動し、岐阜羽島駅で解散。

会費 約一万七千元(宿泊費、一泊二食、懇親会費、バス代、保険料)

両日の昼食代は別。

申込 葉書に会員番号、氏名(ふりがなも)、年齢、住所、電話番号を明記の上、九月九日までに事務局まで。詳細案内書を送付します。定員三十名。

問合せ 森まで Tel・Fax 〇三三三四八八四六七〇

◆松田敏男・山の花と山の版画展

日時 八月一日(火)〜六日(日) 十二時〜二十時

会場 平安画廊

京都市中京区寺町通三条上る 〇七五二二二一〇六九四

なかなかに行く機会のない奥美濃の静かな自然を訪ねて、大日ヶ岳へ探索山行を行います。

日時 九月三十日(日)十月一日(日)

場所 ホテル ホワイトキャッスル

(岐阜県郡上郡高鷲村)

講師 大内幸雄(岐阜大学名誉教授)

日程 三十日 十時三十分、岐阜羽島駅改札口集合 バスでホテル到着後、講演および懇親会

一日 早朝出発し大日ヶ岳へ。登りは蛭ヶ野から約三時間、下りはスキー場へ約二時間。下山後バスで移動し、岐阜羽島駅で解散。

会費 約一万七千元(宿泊費、一泊二食、懇親会費、バス代、保険料)

両日の昼食代は別。

申込 葉書に会員番号、氏名(ふりがなも)、年齢、住所、電話番号を明記の上、九月九日までに事務局まで。詳細案内書を送付します。定員三十名。

問合せ 森まで Tel・Fax 〇三三三四八八四六七〇

◆松田敏男・山の花と山の版画展

日時 八月一日(火)〜六日(日) 十二時〜二十時

会場 平安画廊

京都市中京区寺町通三条上る 〇七五二二二一〇六九四

■ルーム日誌 5月

8日 アルパインスキークラブ

9日 常務理事会 二火会 アルパインスケッチクラブ 図書委員会

10日 青年部 93同期会

11日 理事会

12日 九十周年委員会 アルパインフォトビデオクラブ

13日 山の自然学研究会

16日 青年部 アルパインスケッチクラブ

17日 科学委員会 三水会

18日 集委員会 学生部 アルパインスキークラブ 山の自然学研究会

22日 資料委員会 遭難対策委員会

23日 フィルムビデオ委員会

24日 自然保護委員会 山研委員会

25日 集委員会 山の自然学研究会

26日 自然保護委員会

29日 93同期会 5月来室者真685名

日本山岳会報 山 602号

1995年(平成7年)7月20日発行

発行所 社団法人日本山岳会

〒102

東京都千代田区四番町5-4

サンビュウハイツ四番町

TEL 東京(03)3261-4433

振替口座 東京3-4829

発行者 村木潤次郎

編集人 伊藤 敬

印刷 株式会社 双陽社